鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2017年Decemberの過去ログを見ています。

December27日Wednesday: 「さよなら酉年展」アビシルベで開催

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

本日12月27日から1月5日まで、我孫子駅南口にある我孫子インフォメーションセンター アビシルベにて、鳥の博物館の出張展示「さよなら酉年展」を行います。この展示では、11月26日まで鳥の博物館で開催されていた企画展「鳥・酉・鶏・とり」のパネルから厳選したものを再び展示して、鳥と人の関係について紹介しています。ぜひお立ち寄りください。

< 2017-12 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信

パネル展示の様子

December12日Tuesday: 12月のテーマトークが開催されました

カテゴリ: General　　投稿者: iwamoto

12月9日（土）に、12月のテーマトークを開催しました。今回は山階鳥類研究所保全研究室の富田直樹研究員より「都心で繁殖を始めたウミネコの生態と人との関係」と題してお話し頂きました。

カモメ類の市街地での繁殖は1980年代を境に、世界的に一気に増加しました。そして日本でも1990年代中頃から、たとえばテトラポットでオオセグロカモメが繁殖するなど、人工物での繁殖が確認されるようになりました。その後、札幌市と東京都において、それぞれオオセグロカモメとウミネコが市街地において繁殖することが確認されるようになりました。たとえば上野の不忍池に近いビルの屋上では、約200羽のウミネコが集まって、繁殖したことがありました。

鳥の博物館友の会

google.co.jp

日本における傾向としては、海外のように海岸沿いの都市から徐々に入ってくるのではなく、大都市の真ん中へ一気に入ってきました。しかし、残念ながらそこでは住民との軋轢が発生し、害鳥扱いされるようになっています。

都心でウミネコの繁殖を始めたのはビルの屋上です。東京都はヒートアイランド現象の緩和、大気の浄化等を目的に、建築物の屋上や壁面、ベランダ等を緑化する「屋上等緑化」を推進しています。そして、新しく建てたビルのうち、一定の面積を超えるものについては必ず屋上緑化をしなければならないことになりました。その新築の屋上へウミネコがやってきて、草の上へ産卵が行われるのです。13階建てくらいのビルが狙われることが多く、一度に2〜3の卵を産みます。そして、卵を産んでしまうと、その後は鳥獣保護法により、巣立つまで追い払うことができなくなります。

鳥が繁殖するためには、営巣場所の他に、その周辺でエサがとれるかどうかも重要な条件です。そして、都市へ進出した鳥の場合には一般に、食性や採餌方法を柔軟に変化させ、以前はあまり食べていなかった人間由来の餌等を食べていることがあります。たくましさが見られるのです。しかし、ウミネコの場合は隅田川沿いで採餌していることが意外と多く、主に野生の魚を食べていると考えられました。
都心には天敵のハシブトガラスも多く生息しますが、調査を行っているビルの屋上にはハシブトガラスが来ないことも分かりました。そして、今のところ繁殖成績は離島よりも都心の方がよいという調査結果が得られました。

しかし、ウミネコは下に糞を落とすため、洗濯物や布団を汚されることがないか、住民は不安です。新築のマンションにとっては、風評被害が出てしまうのは大きな痛手ですので、翌年からは産卵が行われる前に、ウミネコが来られないように屋上をネットで覆うなどの対策がとられています。そして翌年になると、営巣地も調査地もまた別のビルの屋上へと移ります。駅前のムクドリなどでもそうですが、新たな場所への営巣と追い払いとが絶えず繰り返されているのです。

今回は合計29名の方が足をお運び下さいましたが、講演後も終了時刻まで質問が絶えず、終わった後も個人的に質問に来られる方がいらっしゃいました。質問の中には、手賀沼にもウミネコは来ないのでしょうか、といったものもありました。ウミネコは現在、手賀沼では繁殖していません。それについては、もしウミネコが来れば、（鳥好きの冨田様としては）有難いけれども、将来、条件がそろえば、その可能性もあるというお話でした。

お集まり下さいました皆様、大変興味深いご講演をして下さいました富田様、まことに有難うございました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

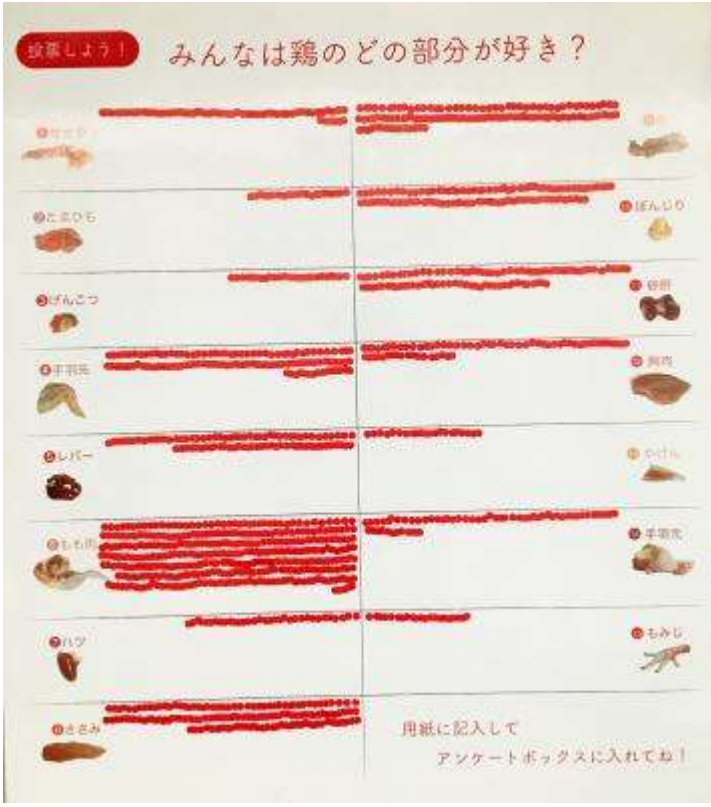
あなたは現在、2017年Novemberの過去ログを見ています。

November14日Tuesday: 好きな鶏肉アンケート結果発表！

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

11月26日（日）まで開催している企画展「鳥・酉・鶏・とり」で
行っているアンケート「みんなは鶏肉のどの部分が好き？」がいよいよ
終わりが近づいてきたので、ここまでのアンケートの結果を発表します！

９月初めのはもも肉が１位でしたが、結果は...



< 2017-11 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

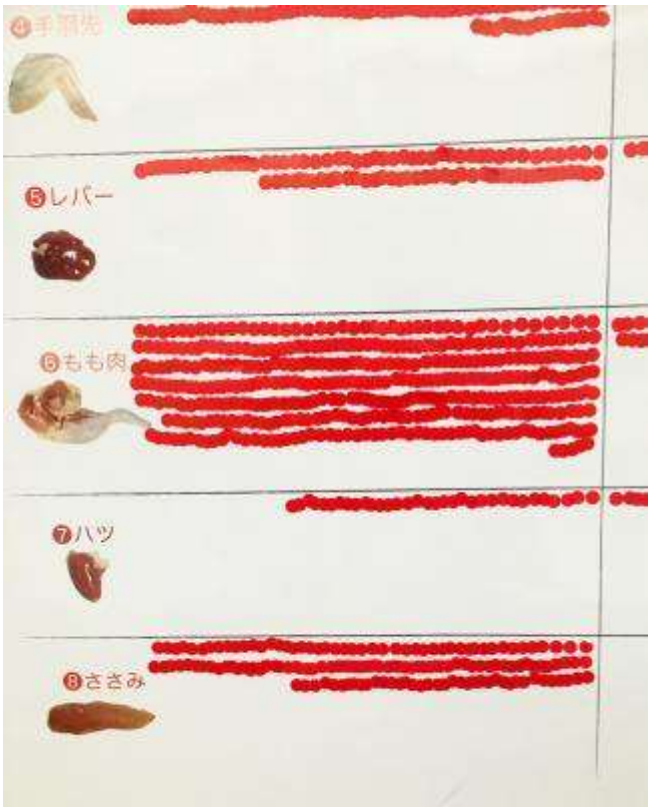
パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会



google.co.jp

やはり、もも肉がダントツの１位でした！
２位のささみにダブルスコアの差でのトップです。

好きな鶏肉料理は９月の段階と変わらず１番多かったのは唐揚げで、特に子供たちに人気でした。２番目は焼き鳥で、もも肉を使うネギマが好きという意見が多かったです。
他には親子丼、ささみの梅しそフライ、筑前煮など様々なご意見がありました。
また、よだれ鶏（冷やした鶏肉に香辛料や薬味をかける四川料理）やチキンアドボ(フィリピンの煮込み料理)など、私自身が食べたことがない料理もあり、集計していて楽しかったです。今度、挑戦してみようと思います。

ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

November 5日Sunday: JBFゲストトークを実施しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

11月5日（日）に、JBFゲストトークを実施しました。「世界に注目されるモンゴルの野鳥と自然環境」と題して、モンゴルからハンバー・トゥメンデルゲルさん（南ゴビ観光組合会長、Tum-Eco Tour）と齊藤 寛和さん（Tum-Eco Tour）をお招きして、お話しいただきました。

ヒゲワシ、ヒマラヤハゲワシ、ソウゲンワシなどの猛禽類や、サケイ、ノガン、サバクビタキなどの日本では珍しい草原の鳥、カベバシリやヒメサバクガラスなどのユニークな種など次々と映し出される美しい写真のスライドに引き込まれました。また、ユキヒョウやマヌルネコ、ナキウサギなどの哺乳類や夜の星空、広がる草原などなど、モンゴルの多様な魅力ご紹介いただきました。

会場からはモンゴルの野鳥や動物の生態などについて質問が飛び交い、みなさんのモンゴルへの興味の深さがうかがえました。

今回は49名の方にご来場いただきました。お話しいただいたトゥメンさん、通訳いただいた齊藤さん、ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

November 5日Sunday: JBF鳥学講座を開催しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

11日4日（土）に、JBF鳥学講座をアビスタホールにて開催しました。今回は「夢を運べ、北の島から日本の空へ ー絶滅から復活への道を歩むシジュウカラガン」と題して、日本雁を保護する会会長の呉地正行さんにお話しいただきました。

シジュウカラガンは頬に白い斑があるガンの仲間で、カルガモより大きく、マガンより少し小さいサイズです。かつては大型のカナダガン（日本ではほとんどが外来種）と同種にされていましたが、これらのグループのうち小型の4亜種が、現在ではシジュウカラガンとして別種として扱われています。

日本では、江戸時代の禽譜にもシジュウカラガンが描かれており、宮城県で渡来数が多かったという記録があります。関東地方にも、東京湾に群れが渡来していた記録や、手賀沼でも生け捕りにした個体の写真が残されています。宮城県でも1935年ごろまでは数百羽の群れが渡来しており、マガンよりも多かったという記録も残っているくらいです。また、19世紀の終わりに千島列島を探検したスノウの著書にも、千島列島のうちキツネのいないエカルマ島、ウシシル島などでシジュウカラガンが繁殖していた記録が残されています。

しかし、1915年ごろから始まったアリューシャン列島や千島列島での毛皮目的のキツネの養殖事業によって、これまでシジュウカラガンの繁殖地だった島々にもキツネが放たれました。このころから越冬地に渡来するシジュウカラガンの個体数は減少の一途をたどり、1960年ごろまでには絶滅してしまったのではないかと考えられていました。これらはキツネによる捕食が原因と推定されています。

幸運なことに、絶滅の淵に立たされていたシジュウカラガンは再発見されました。1963年にアリューシャン列島のバルディール島で、200–300羽の群れがアメリカの調査チームによって見つかると、すぐに個体数回復のプロジェクトが立ち上げられ、人工繁殖が始まり、飼育下の個体数は増えていきました。

日本でもアメリカに続き、日本雁を保護する会による熱意ある取り組みにより、日本への越冬個体群を復活させる再導入プロジェクトが始まりました。

1982年に八木山動物園に保護増殖施設が作られると、アメリカから譲り受けた個体を元に越冬地や中継地で放鳥が行われました。しかし、実際に北の繁殖地に渡る個体は少数で、この取り組みはなかなかうまくいきませんでした。

ソ連の崩壊をきっかけに、1992年に日・ロ・米の3カ国で協力してシジュウカラガンの復活を試みるプロジェクトが始動し、カムチャッカに繁殖施設が作られました。そして、カムチャッカからかつての繁殖地であるエカルマ島にシジュウカラガンの幼鳥を運び、放鳥する活動が、1995年から2010年まで継続して行われました。この取り組みによって、日本に群れが渡来するようになり、2013-14年の冬に初めて日本全体の渡来数が1000羽を超えました。2015-16年の冬には3000羽以上が日本で冬を越したようです。こうして、シジュウカラガンの個体数は絶滅の淵から脱したと言えるまでに復活しました。

今後は、かつての越冬地として記録されている福田町（仙台市）への群れの渡来の復活と、千島列島の繁殖地での調査活動を行うことを目標に活動していきたいとのことです。
呉地さんはこの長年の活動を書籍にまとめるご予定だそうで、これから鳥類の保護の活動をされる多くの方の参考になることと思います。とても楽しみです。

今回は、115名の方にご来場いただきました。お話しいただいた呉地さん、ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2017年Octoberの過去ログを見ています。

October14日Saturday: 10月のテーマトーク開催しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

本日10月14日に、10月のテーマトークを開催しました。今回は、山階鳥類研究所自然誌研究室長の山崎剛史さんに、「鳥の系統学の今 –ハヤブサはワルぶったインコなのか」と題してお話しいただきました。

2012年に日本鳥学会が発行した「日本鳥類目録改訂第7版」では、かつてタカ目に分類されていたハヤブサが、独立したハヤブサ目となり、スズメとインコに近いグループに分類されました。このことは、「ハヤブサはインコの仲間だった！」とニュースなどでも取り上げられました。精悍なイメージのあるハヤブサが、かわいいイメージのあるインコに近いという事実は、一般の人にとっては衝撃だったようです。

そもそも、ハヤブサはなぜタカ目に分類されていたのでしょう。生物の分類は「自然な分類」、つまり、進化の枝わかれを反映した分類であることが求められます。かつては、生物の分類は外見の特徴を用いて行われていました。似た姿を

< 2017-10 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

google.co.jp

しているものは、同じ共通の祖先から分かれてきたのだろう、という考え方です。ハヤブサとタカはともに昼行性で、鋭いかぎづめと嘴をもっています。これらの共通性から、古来から近縁な仲間であるとみなされていました。

しかし、その後、似た生態を持つ生き物は、類縁関係が遠くても似た見た目になるという現象に多くの人が気が付きました。たとえば、イルカとサメはそれぞれ哺乳類と魚類ですが、外見は良く似ています。このケースではともに水中を高速で泳ぐことに適応して似た外見をしていますが、骨格や呼吸系、繁殖の方法などは全く異なっています。このような形態の進化のことを「収斂（しゅうれん）」といいます。
解剖学の研究が進むと、ハヤブサとタカの頭骨や筋肉、卵殻の化学成分、翼の羽の換羽の順番など、さまざまな点で違いがあることが明らかになりました。しかし、これらの違いが分かっても、依然としてハヤブサはタカに最も近縁なグループであるとみなされ続けました。

2008年に、アメリカのハケットらがDNAの塩基配列を用いてほとんどの鳥の進化系統を明らかにしました。そこで初めて、ハヤブサはタカとは大きく異なり、インコ目・スズメ目と親戚のグループを構成することが明らかになったのです。その後に出版されたいくつかの論文でも、このグループ分けを支持する結果が出ているため、日本をはじめ多くの目録で、この分類が支持されています。

では、本当に「ハヤブサはワルぶったインコである」と言えるのでしょうか？
実は、最近より詳しく明らかになった進化系統では、ハヤブサを含む多くの陸鳥の共通の祖先は、捕食性であったと考えられています。その中から、カワセミ・ブッポウソウなどのグループとスズメ・インコのグループの2つが、非捕食性の生態に進化したのではないかと考えられています。つまり、ハヤブサはインコから捕食性に進化したわけではなく、むしろインコを含むグループが「牙を抜かれた」という方が理にかなっています。これは、精悍なイメージのハヤブサを愛する人たちにとって朗報と言えるかもしれません。

ハヤブサのお話に続いて、カワセミを含むグループの進化についてもお話しいただき、カワセミはフクロウとの共通の祖先から進化してきたことをご紹介いただきました。
近年のDNAの解析技術の向上によって、これまで良く分かっていなかった様々な鳥の類縁関係が明らかになってきました。今後も、鳥類の分類研究ではまだまだ新しい発見があることが期待されています。

小雨の降る中、54名もの方にお集まりいただきました。ご参加いただいたみなさま、お話しいただいた山崎さん、ありがとうございました。

*12/19誤った内容を修正しました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

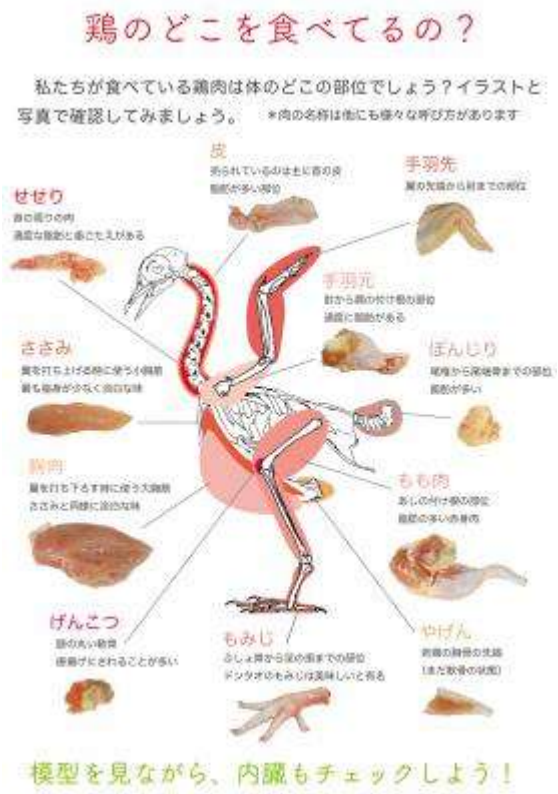
過去ログ

あなたは現在、2017年Septemberの過去ログを見ています。

September 1日Friday: あなたは鶏のどこの部分が好き？

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

博物館で開催中の企画展「鳥・酉・鶏・とり」で、
好きな鶏肉についてアンケートを実施しています！
鶏肉を下の写真の１５種類に分けて、好きな部分を1つ選んでもらっています。



７月半ばに始まってから1ヶ月半。だんだん皆さんの好きな鶏肉の部分が
分かってきました。現在までの結果がこちら！

< 2017-09 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

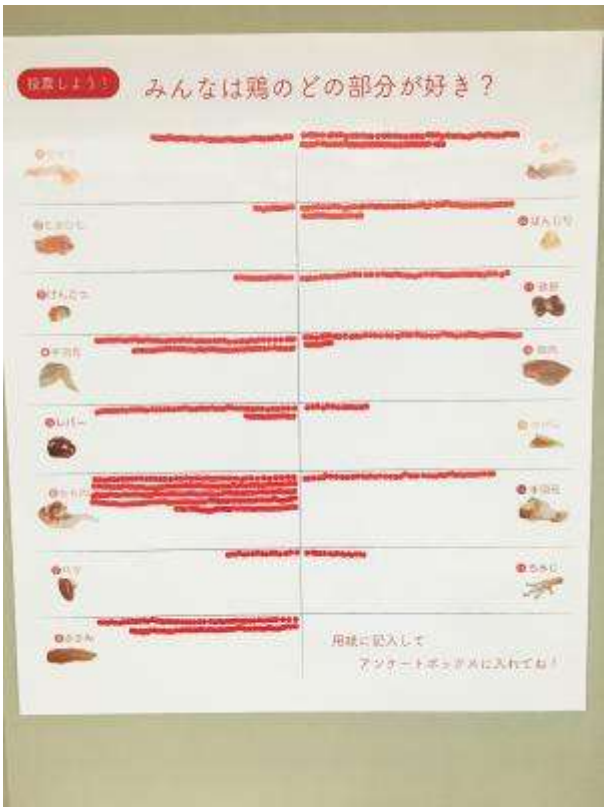
パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会



google.co.jp

もも肉、ダントツです！そのあとを手羽先とささみが追いかけます。
皮も票を伸ばしてきています。
自由記入欄には好きな鶏肉料理を書いてもらっていますが、
唐揚げと焼き鳥がほとんどを占めています。
やっぱり皆さん、ジューシーでボリュームがある、もも肉が好きみたいですね！

企画展が終わる頃には、どんなアンケート結果になるのか楽しみです。

ちなみに私が好きな部分は手羽元とげんこつです。

September 1日Friday: 夏の遊びと研究大集合2017後半終了

カテゴリ: General　　投稿者: someya

いよいよ新学期が始まりましたね。
夏休み期間に実施した「夏の遊びと研究大集合2017」後半の様子を少しご紹介します。今年もたくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございました。夏休みは終わってしまいましたが、また鳥の博物館に遊びに来て下さいね。お待ちしていまーす。

①フクロウホバークラフト

風船を使った工作です

机の上をフクロウがスイスイ進みます
②ゴーストミミズク

魔女登場！呪文をかけるとゴーストが！

かわいいおひげをつけたゴーストもあらわれました

思い思いのゴーストが誕生

③ブーブーカモ笛

風船でカモ笛をつくろう

「ブォー」と面白い音が♪

④くるくる鳥コプター

くるくると舞い上がる鳥コプターについて説明

飛ばすためにゴムを巻くのが大変です

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2017年Augustの過去ログを見ています。

August22日Tuesday: 職場体験　我孫子中学校編

カテゴリ: General　　投稿者: someya

本日、我孫子中学校の１年生２名が職場体験のため、鳥の博物館に来館されました。博物館にはいろいろな仕事があって、いろいろな人が働いているということを知ってもらえたと思います。二人とも久し振りの来館とのことです。また遊びに来てね。

作業の様子を少しご紹介。

展示ケース内の蛍光灯替え

< 2017-08 >

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

収蔵庫内の標本整理

受付窓口対応（受付内側から撮影）

google.co.jp

ミュージアムショップ対応（商品整理）

展示を補助するパネルやキャプションについて説明後、パネル作りを体験

カワセミのガイドに使用するパネルができました。
使わせていただきます！

August18日Friday: 夏の遊びと研究大集合2017前半終了

カテゴリ: General　　投稿者: someya

毎年恒例の夏休みイベント「夏の遊びと研究大集合」は8月の土日祝日の午後１時３０分から実施しています。前半が終了して、いよいよ明日からは後半に入ります。ぜひご参加下さい。お待ちしています。工作の宿題がまだ済んでいないという方必見です。

終了したイベント前半の様子をご紹介。

①最強の動物「クマムシ」を探せ！

クマムシの姿・動きを見て「かわいい」という感想が多いようでした。

裏山の土の中にはいろいろな生き物がいました。
②フクロウホバークラフト

風船を使った工作です。的当てゲームに夢中です。

③メダカでアクアリウム

メダカがどんな魚か、取り巻く環境や飼育方法も紹介。

飼育した80匹のメダカが旅立っていきました。お家で大切に飼ってね。
④ブーブーカモ笛

笛の音色にみんな笑顔になりました。
⑤しらべてみよう！フクロウのご飯

フクロウはどんな鳥かな。何を食べているのかな。

フクロウが吐き出したペリットを分解すると、鳥やネズミなどの骨がありました。

August16日Wednesday: 8月のテーマトークを実施しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

8月のテーマトークは、「書籍にみる飼い鳥文化ー大正から昭和にかけてー」と題して、山階鳥類研究所コレクションディレクターの鶴見みや古さんにお話しいただきました。31名の方にご来場いただきました。

日本には、江戸時代以前から独自の飼鳥文化が発展しており、その内容は江戸時代に記された「喚子鳥（よぶこどり）」の中にも見ることができます。その後、明治維新以降に西洋からもたらされた飼鳥文化と融合し、大正時代以降に鳥の飼育が流行しました。
山階鳥類研究所には、大正~昭和期に発行された鳥の飼育に関する雑誌が約70誌、単行本では700冊以上所蔵されており、そのコレクションから読み解けることをお話しいただきました。

大正10年に創刊された「かひどり」、「趣味の飼い鳥」などの雑誌は海外産の小鳥の飼育方法や飼育の難しい国産の飼い鳥など様々な内容を取りあげ、国内での鳥の飼育の研究成果の発表、普及啓発の場として盛り上がっていました。このような雑誌の中には、何と月刊誌もあったそうです。
昭和10年には「趣味の飼い鳥」から「国産飼鳥」→「鳥獣時事新聞」（昭和22年–53年）と名前を変えて発行が続きました。この時代にはセキセイインコやローラーカナリアの品評会が各地で行われ、優勝賞金が数十万円になるものもあったそうで、当時の飼育家の熱の入れ方が伝わってきます。

1982年から6年間かけて出版された「原色飼鳥大鑑」では、このように発展させた飼育技術は鳥類の保護増殖のために活用すべき、ということが記述されているそうです。時代の流れとともに、鳥の飼育が単なる趣味ではなく、応用的な目的にも活用されるように変化していったことがわかりました。

お話しいただいた鶴見さん、ありがとうございました。

*内容を一部修正いたしました（8/19）。

August13日Sunday: 学芸員実習最終日

カテゴリ: General　　投稿者: someya

10日間の日程で行っていた学芸員実習が本日最終日をむかえました。
野外観察会でのガイドか展示室でのガイドのどちらかを選択して実施する課題があり、今日は展示室でのガイドが行われました。みなさん短い期間で内容をまとめ、実習で見たこと・聞いたことを吸収して、形にできていました。頑張りました！また博物館に遊びに来て下さいね。

実習生の奮闘ぶりを少しご紹介。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2017年Julyの過去ログを見ています。

July30日Sunday: 大学生ボランティア研修

カテゴリ: General　　投稿者: someya

夏のイベントを一緒に盛り上げてくれる大学生ボランティアの研修を行いました。いつもお手伝いいただいているボランティアスタッフも参加しました。

イベント内容について説明や練習を行い、活動の仕方などを確認しました。夏にむけて着々と準備はすすんでいます。夏は鳥博でお過ごし下さい！みなさんのご参加をお待ちしています。

※イベントは8月中の土日祝日、13時30分から実施します。

練習の様子

July26日Wednesday: あびこ自然観察隊「手賀沼のプランクトンと水鳥を観察しよう」を実施しました（2017.7.25）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

< 2017-07 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信

夏休みイベントの一つ、あびこ自然観察隊「手賀沼のプランクトンと水鳥を観察しよう」を我孫子市の手賀沼課との共催で実施しました。自作したプランクトンネットで手賀沼のプランクトンを採集して顕微鏡で観察するプログラムで、その途中、手賀沼の水鳥の船上観察も含まれています。1日がかりの盛りだくさんの内容でした。まずはじめに、今日の講師の柄沢先生の指導でプランクトンネットを作りました。

ネット完成後、プランクトンと魚と鳥をめぐる手賀沼の生き物たちの関わり合いのお話を聞きました。

鳥の博物館友の会

google.co.jp

お昼ごはんを食べてから、午後、船で手賀沼のハスと水鳥（カワウ、カイツブリ、アオサギ、コサギ、オオバン、ユリカモメ、ツバメ、ハシボソガラスなど）を観察した後、桟橋でプランクトンを採集しました。熱い中、皆がんばって活動していました。

水の館の研修室に戻り、採集したプランクトンを顕微鏡で観察しました。クンショウモの仲間、ワムシの仲間、ケンミジンコの仲間、ケイソウの仲間など、全体で約20種類のプラクトンを観察し、終了しました。
参加者は、しだいに顕微鏡観察に目が慣れてきて、小さなプランクトンも見えるようになったようです。終了時間ギリギリまで、熱心に観察していました。
沼の中の小さな生物が、手賀沼の生態系を支えていることを体験できた一日だったと思います。

July15日Saturday: 本日から企画展「鳥・酉・鶏・とり一酉年は酉で楽しむー」開催です！

カテゴリ: General　　投稿者: minou

本日7月15日、2階企画展示室にて、山階鳥類研究所との共催企画展「鳥・酉・

鶏・とりー酉年はトリで楽しむー」がスタートしました。

展示室入り口

今回の企画展のテーマは「人とトリの関わり」です。
展示室では、野生に生きる「鳥」、暦の中の「酉」、家禽としての「鶏」、そして、美術品などの対象とされる「とり」と、大きく分けて４つのテーマに分かれています。貴重な図書資料や様々な品種の鶏の標本などを通して、人とトリがどのような関係をもっているのかについて紹介しています。
展示を通して人とトリの関係の多様さを感じて頂けたらと思います。
ぜひ、お越し下さい。

また、1階エントランスホールも展示を新しくしています。
こちらもぜひ、チェックしてみてください。

写真はゴイシチャボのジオラマ

July 8日Saturday: 7月のテーマトークを行いました（2017.7.8）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

7月のテーマトークは、「鳥類標識調査—最近の話題から—」というテーマで、山階鳥類研究所保全研究室専門員の吉安京子さんにお話いただきました。

「鳥類標識調査（バンディング）とは、1羽1羽の鳥が区別できる記号や番号がついた標識（足環）を鳥につけて放し、その後の回収（標識のついた鳥を見つけ、その番号を確認すること）によって鳥の移動や寿命について正確な知識を得るという調査方法です。・・・中略・・・。環境省が山階鳥類研究所に委託して標識調査を実施しており、全国に設定された鳥類観測ステーションを中心に山階鳥類研究所や大学などの研究者、ボランティアバンダーが鳥を安全に捕獲し、標識をつけて放鳥しています。」（山階鳥類研究所HPより）。

はじめに標識調査の目的や調査方法など基本的な解説があり、放鳥と回収の具体的な手順や事例が紹介されました。これまで放鳥600万件に対して回収が6

万件とのことでした。
　また興味深い回収例として、日本とアメリカの越冬地をまたに架けて移動するオナガガモやモンゴルで標識され日本で回収されたタゲリ、ロシアで標識され日本で回収されたツリスガラ、アラスカで標識されたムナグロが我孫子でも確認され、それが太平洋の真ん中を南下しミクロネシアの島々で越冬した後、日本の沿岸に沿って北上していることが分かった事例などを紹介してくださいました。
　回収のパターンとして、研究者や協力者が標識個体を再捕獲する場合のほか、標識が撮影された写真が届けられる場合や標識された個体が斃死鳥として回収される場合などがあり、一般の方たちの協力が標識調査の成果につながっている事が改めて分かりました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2017年Juneの過去ログを見ています。

June18日Sunday: あびこ自然観察隊「河原の鳥を観察しよう」実施しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

本日6月18日に、あびこ自然観察隊「河原の鳥を観察しよう」を実施しました。利根川ゆうゆう公園の自然観察ゾーンの草地を歩き、河原の草地や林で繁殖する鳥を観察しました。11名の方にご参加いただきました。

枯れたヨシに止まってさえずるオオヨシキリのオス。

駐車場から河川敷へ歩き出すと、オオヨシキリとヒバリの声に包まれます。河原の草地を代表する2種類ですが、オオヨシキリは主に丈の高いオギやヨシの草地に、ヒバリは主に丈の低い草地や裸地に生息します。（画像は下見のときのもの）

< 2017-06 >

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

ヨシに止まってさえずるオオヨシキリをみんなで観察しているところ。鳴き声を頼りに探します。オオヨシキリはたくさん見られましたが、コヨシキリは鳴いているオスは1羽しか確認できませんでした。

草地では、大きなニホンカナヘビを見つけました。触ってもらってニホントカゲとの違いを説明しました。ざらざらしているのがカナヘビの特徴です。

google.co.jp

nucleus

小形のハヤブサの仲間のチョウゲンボウが草地の上空にとどまって（ホバリングといいます）餌を探している様子をよく見ることが出来ました。チョウゲンボウは今時期に育ち盛りのヒナがいるので、両親とも餌運びに大忙しです。（画像は下見のときのもの）

集合場所に戻ってきて、野球場のバックネットに止まってさえずるホオジロを観察しました。

声のみの確認を含め、24種の鳥を観察できました。梅雨の合間をぬっての実施でしたが、河原で暮らす鳥たちの生活をじっくり観察することができました。
ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。また鳥の博物館の自然観察会にご参加ください！

June13日Tuesday: 6月のテーマトーク開催しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

6月10日に、山階鳥類研究所の研究員の方に最新の研究内容についてお話しいた

だく「テーマトーク」を開催しました。30名の方にご参加いただきました。

今回は、浅井芝樹さん（山階鳥類研究所　自然誌研究室研究員）に「その学名でいいのか？–日本鳥類目録第7版を評価する」と題してお話しいただきました。

鳥に関する学術団体の日本鳥学会では、およそ10年ごとに日本に分布する鳥類のリストを作成して「日本鳥類目録」として出版しています。鳥類目録には、「スズメ」などの標準和名という日本語の名前の他に、学名という世界共通の名前が記載されています。
たとえばスズメでは、以下の様に記載されています。

569. *Passer montanus* (Linnaeus, 1758)　スズメ

*Passer montanus*が学名で、*Passer*を属名、*montanus*を種小名といいます。Linnaeusは名前を付けた人（記載した人）、1758は記載された文献の出版年です。569は目録の通し番号です。このように、種の学名は一般的に属名、種小名、命名者、命名年の4語であらわされます。

前回の日本鳥類目録は2012年に出版されたのですが、最近の分類学の発展によって、多くの種で前回の目録第6版から学名が変更されています。そこで、浅井さんたちは目録7版に記載されている学名が正しいのかどうかについて、スズメ目の15の科の鳥について評価を行いました。

6版から7版で学名が変更された例で「正しい」ものとしては、オナガの種小名の変更、メジロの記載年の変更などがありました。これらはラテン語の綴り方の誤りや記載年の先取権の問題が正しく解決された例とのことです。また、シジュウカラを始め多くの種が、最近の分子系統学の発展により、それに即した形に分類も変更されました。

6版から7版で学名が変更された例で「正しくない」ものとしては、ニュウナイ

スズメの例があります。目録7版では、*Passer rutilans* (Temminck, 1836)という学名が使われていますが、これは6版に記載されている1835年の出版年から修正されています。これは、いくつもの分冊によって記載されたために、どの年に出されたものか混乱していたためだということです。
しかし、さらに過去の文献をよく調べたMlíkovskýさんが2011年に出した論文によると、同じニュウナイスズメに対して、Gouldさんによって*cinnamomeus*という種小名を記載した文献が同じ年の4月8日に記載されていることが分かりました。一方で、Temminckさんの記載した文献は出版の日付が不明で、国際的な動物の命名ルールによると、日付が不明の場合は12月31日として扱うことになっているので、Gouldさんの命名した*cinnamomeus*がニュウナイスズメの種小名として適切であるとのことです。

「正しい」学名を目録に掲載するためには、とても古いものを含めて多くの文献を調査する必要があり、たいへんな努力が必要だということがよくわかるお話でした。浅井さん、ありがとうございました。
お話しいただいた内容については、以下の日本語の論文（誰でも読むことが出来るようになっています）でご興味ある方はご覧ください。
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjo/65/2/65_105/_article/-char/ja/

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2017年Mayの過去ログを見ています。

May16日Tuesday: バードウィーク手賀沼探鳥会実施しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

5月14日（日）にバードウィーク手賀沼探鳥会を実施しました。当日は小雨のちらつく始まりとなりましたが、雨はすぐに上がり、手賀沼沿いを歩いてバードウオッチングを楽しみました。

開始してまずは手賀沼の水面にいる鳥を探します。ここからはオオバンやカワウが見られました。

< 2017-05 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

近くで見られたコブハクチョウの親子。ヒナの姿はかわいいものですが、一方で、この時期は水田に入って田植えしたばかりの稲を食べたり踏み倒したりする被害も出ています。

ヒメガマの中にいるオオバンをスコープで観察します。我孫子野鳥を守る会のみなさんのサポートで、初めての方も多くの鳥を見ることが出来ました。

google.co.jp

シジュウカラが桜の枝で採食しているのを観察しています。何匹か加えると林の方へ飛んで行きました。ヒナに餌を運んでいるところだったのでしょう。

ツツジの植え込みの中から延びた細いエノキにアカボシゴマダラの幼虫がいるのを参加者の方が見つけてくれました。観察会ではゴマダラチョウと誤って説明してしまいましたが、背中の突起がよく見ると4つあること、尾の先端が閉じていることからアカボシゴマダラでした。訂正してお詫びします。

一般の方38名、我孫子野鳥を守る会から38名の参加があり、全てのグループ合わせて34種類の鳥を観察することが出来ました。

May13日Saturday: ５月のテーマトーク行いました（2017.5.13）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日は、山階鳥類研究所副所長であり保全研究室室長の尾崎清明さんが「なぜアホウドリやトキを保護するのか？」というテーマでお話してくださいました。

改めて、鳥をなぜ保護するのか問われると、人によってさまざまな考えがあ

ることに気づきます。
・絶滅した種は取り戻せない。生物多様性を維持する事は大事。
・人間活動が原因で絶滅の危機に追い込んだものは人間の責任において復活させる。
・豊かな人間生活を送る上でその種が存在することには意義がある。
尾崎さんは、そのほか人により色々な理由が挙げられることを示してくださいました。
また、尾崎さんがこれまで携わってこられたアホウドリとトキの保護活動のこれまでの経緯や色々な人の考え方や行動の事例が紹介されました。保護活動には多くの人の努力と費用と年月がかかることを再認識させられました。
最後に、尾崎さんが時々見るという、どこか見知らぬ田園風景の中にトキがたたずむシーンと、これが正夢となりそうな最近の事例が紹介され、保護活動に長年中心的に携わってこられた尾崎さんがイメージする理想の将来像を共有することができました。
折しも今日はバードウィークのなか日、鳥と人との関わり合いについて思いを巡らせてみるのも意義あることだと思います。

May10日Wednesday: 幼稚園団体来館

カテゴリ: General 投稿者: someya

鳥の博物館は大人からお子さままで、さまざまな団体の方にご利用いただいています。
本日来館いただいた幼稚園団体さまの様子を少し紹介。

体験学習室で鳥のぬり絵をお楽しみ中です

スズメのぬり絵です
やっぱりスズメは茶色だね

なっ！かなりカラフルなスズメもいました

みなさんきれいに塗れていました。
ぬり絵は常時お出ししていて、どなたでも自由にご利用いただけます。
団体で利用されたい時は来館申し込みの際にお申し出下さい。

May10日Wednesday: 鳥凧教室

カテゴリ: General　　投稿者: someya

5月5日の子どもの日に鳥凧教室を実施しました。このイベントは鳥の博物館友の会の鳥凧同好会と鳥博が共催で行っています。友の会のメンバーに加え、市民スタッフも一緒に手順説明をしました。鳥凧とは鳥形の凧で、軽くてよく揚がるのでお子さまでも気軽に楽しめます。
イベントの様子をご紹介。

説明を聞いて…

作業に取りかかります

できあがりました

作品を持ってみんなで写真を撮りました
ビニールがカラフルできれいです

次回、鳥凧教室は来年1月8日に実施予定です。

May 5日Friday: 飛べ！鳥の紙ひこうき

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

今年もゴールデンウィーク恒例の工作イベント「飛べ！鳥の紙ひこうき」を開催しました。

折り紙ひこうきと違い、厚紙を切って角度をつけて作る機体で、
ゴムの力で大空高く飛ばすことができます。

まずは室内で講師の方から紙ひこうきや鳥のお話を聞きながら機体作り。

その後は外で飛行練習！少し風が強かったですが、皆さん上手に飛ばせていました。

この日は、海外の折り紙ひこうきの大会に日本代表として出場した方もゲストで来てくれました！参加者の皆さん、一挙手一投足に興味津々。

また来年も開催予定なので、皆さん、是非ご参加ください！

May 4日Thursday: ヨシノボリの威嚇

カテゴリ: General　　投稿者: someya

鳥博の3階ベランダでは手賀沼で見られる水生生物を展示している小さなコーナーがあります。
その中の一つ、ヨシノボリの仲間を紹介します。隠れ家に使えるように石を入れていますが、水槽にいる３匹ともその場所が好きなようで、一見何もいないように見えることがあります。

ヨシノボリの仲間。顔の赤い線が特徴です。

じっと見ていたら威嚇してきました。
口を開けて背びれをたてています。もっと大きな口を開けていましたが、その瞬間は逃してしまいました。
毎年産卵していますので、今年も見られることを楽しみにしています。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2017年Aprilの過去ログを見ています。

April11日Tuesday: 4月のテーマトーク実施しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

4月8日（土）に、新年度最初のテーマトークを実施しました。テーマトークは、山階鳥類研究所の研究員の方に、最新の鳥に関する研究の内容をわかりやすくお話しいただくイベントで、毎月第2土曜日の午後から、鳥の博物館で開催しています。

今回は、森本元さん（山階鳥類研究所　保全研究室・自然誌研究室研究員）に「生き物の不思議を暮らしに活かす『バイオミメティクス』～鳥の色の話題を中心に～」と題してお話しいただきました。

バイオミメティクスとは、耳慣れない言葉ですが、「生物の持つ機能を模倣する科学」という意味です。最近の技術開発によって、私たちの暮らしにも多くの模倣がとり入れられています。たとえば、オナモミの種子の表面を模倣して作られたマジックテープや、フクロウの風切羽にある突起を模倣して作られた電車のパンタグラフなどはその例です。

< 2017-04 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信

鳥の博物館友の会

google.co.jp

私たちが鳥から学べることは、羽毛の機能である保温や飛翔などいろいろありますが、森本さんたちは羽毛の色に着目しました。現在使われている塗料は光沢を出すために金属が混じっていることが多いために重く、紫外線などで色あせてしまいます。一方、鳥の羽毛は軽く、色あせにくいという特徴があります。鳥の羽毛を模倣できれば、より優れた着色の方法を開発出来るかもしれません。

鳥の羽毛の発色には大きく分けて3つあります。（1）メラニン色素によるもの、（2）餌由来のカロテノイドによるもの、そして（3）構造色によるものです。構造色とは色素が直接介在せずに作りだされる色で、メラニンやケラチンなどのたんぱく質の分子の配列によって一部の光は強まり、他の光は弱まるような干渉を受けることで作りだされています。鳥が羽毛に持つ青色は、そのほとんどが構造色による発色です。

森本さんは千葉大学の研究グループとの共同研究で、クジャクの羽毛の分子の配列を模倣して、構造色によってさまざまな色に発色する材料を作りだすことに成功しました。また、キラキラと輝く構造色と、そうではない構造色をつくり分けることが出来ることも発見されました。

この研究が今後実用化されれば、構造色をいろいろな製品に応用できるかもしれません。私たちが生きものたちから受けることが出来る恩恵にはいろいろな可能性が秘められていることを感じたお話でした。森本さん、ありがとうございました。

April 6日Thursday: フクロウコーナー設置

カテゴリ: General　　投稿者: someya

鳥博巣箱で今シーズンもフクロウが子育てをはじめました（詳しくは「とりはく自然通信」を参照）。
鳥の博物館では我孫子市のある場所にフクロウの巣箱をかけ、中にカメラを設置しています。子育ての様子はライブ映像でご覧いただけます。鳥博ホームページでも見られますが、オススメは館内の特設フクロウコーナーです。こちらでは音声も一緒に楽しめます。フクロウがどんな声で鳴いているのか、ヒナがどんな声でエサをねだるのか、鳥の博物館で確認を！

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2017年Marchの過去ログを見ています。

March30日Thursday: 標本の製作講座を実施しました

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

3月26日に、博物館の市民スタッフと友の会の方を対象に、標本の製作講座を実施しました。山階鳥類研究所 自然誌研究室の岩見さんを講師にお迎えし、14名の参加者のみなさんに小形の鳥の仮剥製標本の製作に挑戦してもらいました。

製作の前に、岩見さんから、標本とは何か、また標本の活用方法についてお話しいただきました。博物館では標本の収集を継続的に進めていくことが重要ですが、現在は技術を学べる場所が少なくなっていることから、標本の作り手不足が問題になっています。

< 2017-03 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

google.co.jp

一つ一つの手順を見せてもらってから実際に手元の鳥で作業する、という繰り返しで、少しずつ作業を進めていきました。山階鳥類研究所では、仮剥製を作る時も鳥の骨格を出来るだけ壊さないように作業されていて、将来的に最大限に活用できるように工夫されていました。

博物館に持ち込まれる鳥は、事故などに遭って死んでしまったものもいます。皮が破れていたりして苦戦した方もいましたが、何とか半分ほどの方が最後まで製作することができました。

また来年度もこのような機会を設け、標本に関わる人の環を広げていければと思っています。講師をつとめていただいた岩見さん、参加されたみなさま、ありがとうございました。

March20日Monday: あびこ自然観察隊「春の谷津田観察会」実施しました

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

3月20日(月・祝)に、あびこ自然観察隊「春の谷津田観察会」を実施しました。里山の景観が残されている岡発戸・都部の谷津を歩きました。大人22名、子ども9名の参加がありました。

東我孫子から5分ほど歩くと、谷津の入口に着きました。向かいの斜面のササやぶからは、ウグイスの「ホー、ホケキョ」というさえずりが聞こえてきます。

丈の低い草地の中を探すと、コロコロした茶色い草の固まりが見つかりました。これはノウサギのフン。夜の間にここにやってきているようです。

ニワトコのブロッコリーのような蕾（つぼみ）をみんなで観察しました。

暖かい日差しに誘われて、ナミテントウやムラサキシジミなど、成虫で冬を越している虫たちも多く見られました。

ニホンアカガエルの卵とオタマジャクシを観察しました。現在では多くの水田で冬に水が落とされてしまうため、アカガエルやヒキガエルなどの冬から春に産卵するカエルの仲間は限られた場所でしか見られなくなってしまいました。

橋の近くで見つけたイタチと思われる哺乳類のフン。白っぽい小鳥の羽毛やザリガニの殻などが入っていました。

梅林で見つけたキジバトの巣。他の鳥に比べて粗雑な作りです。東我孫子駅の近くではさえずっている雄も見られました。

12時ごろまで谷津田を一回りし、多くの生き物を観察することが出来ました。参加されたみなさま、ありがとうございました。また鳥の博物館の自然観察会にぜひご参加ください。

March12日Sunday: 3月のテーマトーク実施しました（2017.3.11）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日は、山階鳥類研究所自然誌研究室専門員・広報室主任の平岡考さんに、「毎日運行する漁船で営巣したツバメ」というテーマでお話いただきました。

おりしも今日3月11日は、東日本大震災から6年目にあたります。地震とそれに伴う津波と原発事故により、東日本を中心に甚大な被害を被りました。この

時、山階鳥類研究所が文部科学省と環境省に対して提言した、陸鳥・海鳥への影響調査や被災地の標本レスキューの必要性の紹介からお話は始まりました。

さて、本題の「漁船で営巣したツバメ」の舞台は、静岡県の伊豆半島の東部の富戸岬にある漁港です。

2014年から2016年までの3年連続で、毎日漁に出る漁船にツバメが営巣し、ヒナを巣立たせることに成功した事例を紹介してくださいました。船のオーナーの石井船長が映像とともに数日おきに記録をとってくれたお陰で、繁殖の詳しい様子が明らかになったそうです。

紹介されたビデオには、ツバメの親鳥が船が出発して沖合500m以上離れるまでは、ヒナへの給餌に訪れ、逆に沖合から船が帰って来て、やはり沖合500mまで近づくと、再び給餌のために飛来するシーンが映し出されました。

繁殖データから、このツバメは、陸地で繁殖するツバメより抱卵日数が長く、抱卵時間長く取れないなどのハンディーを負っているらしいとのことでした。何故あえて繁殖に一見不利な動く船に3年連続して営巣したのか謎は深まります。また、港の中を動き回る数ある船の中から、親鳥がどうやって営巣した船を認識しているのかも現時点では謎とのことでした。

国内外での船に営巣した鳥の他の例も紹介され、日本ではツバメが船に営巣した11例が、海外ではミドリツバメ、ツバメ、タイランチョウ、コマツグミなどが船に営巣した例が示されました。

人工構造物にだけ営巣するツバメですが、今後の人とツバメとの関係にひょっとしたら新たな展開があるかもしれないことを予感させるお話でした。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2017年Februaryの過去ログを見ています。

February18日Saturday: 鳥博セミナー開催しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

本日2月18日に、鳥博セミナー「日本の鳥の今を描く　全国鳥類繁殖分布調査」を開催しました。NPO法人バードリサーチの植田睦之さんにお話しいただき、32名のみなさまにご参加いただきました。

全国繁殖分布調査は、過去に2回（1970年代後半と90年代～2000年代）環境省によって実施されていますが、2016年から現地調査が始まった今回はバードリサーチなどのNGOが主体となって実施されます。これまでの調査でも、チゴモズやシロチドリなど、減少している鳥を発見し、これらの種をレッドリストに掲載することにつながってきました。今後の調査でも、過去と比べて分布が縮小した鳥、逆に拡大した鳥について重要なデータが得られることが期待されます。

2016年の調査では、全国の約2300地点のうち約500箇所で現地調査が行われました。この調査をもとにして、分かってきた傾向についてお話しいただきまし

< 2017-02 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

検索

検索

ナビゲーション

前の月
次の月
今日の投稿
過去ログ

カテゴリ

全てのカテゴリ
General
お知らせ
今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

我孫子市鳥の博物館
フィールドミュージアム
ふくろうトピックス
とりはく自然通信
鳥の博物館友の会

た。
前回の調査に引き続き、アオサギやカワウなどの魚食性の鳥や、ガビチョウやソウシチョウなどの外来チメドリ科の鳥は分布の拡大が続いているとのことです。さらに、90年代後半の調査で減少が心配されていたアカショウビンやサンショウクイなどの夏鳥も、新たに出現した地点が多く記録されました。ただし、まだ全地点での調査が終わっていないので、より正確な結果については今後はっきりしてくるだろうとのことです。

調査に参加するには、調査員として登録する必要がありますが、ご自分のフィールドを任意定点として登録できますし、特別な調査を行わなくても、日頃のバードウオッチングの結果をアンケートとして報告することもできるそうです。ご興味のある方は、まずはホームページから調査員として登録してみましょう。
http://bird-atlas.jp/

この調査に加えて、東京都と茨城県ではさらに細かい調査メッシュを設定して精度の高い調査を行う予定で、越冬期の分布情報の収集も今後行われていくとのことです。繁殖分布調査を通じて作ったネットワークを今後も活用して市民調査の環を広げていきたいという夢のあるお話でした。

質疑応答の時間では、「結果をまとめるときに調査員間のスキルの差をどうやって考慮するか」、「調査のまとめの際に希少種の生息状況をどのように考慮して公開するか」などについて活発な質問が出たり、調査に実際に参加したいけどどのように協力できるかなどの協力の申し出がありました。
有意義なセミナーになったと思います。ご参加いただいたみなさま、講演いただいた植田さん、ありがとうございました。

February14日Tuesday: あびこ自然観察隊「オーイ！冬鳥くん」実施しました

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

2月12日(日)に、手賀の丘少年自然の家との共催で、あびこ自然観察隊「オーイ！冬鳥くん」を実施しました。林、農地に沼と、手賀沼周辺で冬鳥が見られる環境を歩いて多くの冬鳥を観察しようという企画です。

林の中では、ルリビタキ、ウソなどに加え、今年数の多いアトリも観察できました。耳を澄まして小鳥の地鳴きを聞くと、小さな鳥でも見つけられたと思います。池ではカワセミも全員でじっくり見られました。

google.co.jp

暗い林を好むルリビタキ。雄は鮮やかな青い羽色ですが、雌や若い雄は全身ほぼ褐色です。（下見の時の画像です）

農地に出ると、一気に強風が吹きつけます。それでも、ツグミやカワラヒワなど、林の中とは鳥の種が違うことに気づけたと思います。

強風に耐えて歩く参加者のみなさん。手前に三脚の先が写りこんでいてスミマセン…。

キジの翼だけが道路に落ちていました。羽は散らばっていなかったので、どうしてここに落ちていたのかは不明です。この周辺で見られる他の大形の鳥に比べてつばさが丸く、全体の湾曲が大きいのが特徴的です。

沼の中央のマガモの群れ。どの個体も風に向かって頭を向けているのは、その方が飛び立つときに上昇する力を得られやすいからです。（下見の時の画像です）

沼ではマガモやオオバンなどの水鳥を観察できました。沼岸のヨシ原ではモズやオオジュリンなども見られました。

冷たい風が吹き寒かったですが、鳥が厳しい冬をどのように乗り切っているのか、実際に観察できたと思います。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。鳥の博物館の他の自然観察会にもぜひまたご参加ください。

February11日Saturday: ２月のテーマトーク実施しました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

鳥の博物館の空調設備の工事も無事終了し、４ヶ月ぶりにテーマトークを実施しました。

小笠原諸島で80年ぶりにアホウドリが繁殖に成功し、ヒナが誕生したことはご存知の方も多いはず。このプロジェクトの中心メンバーの出口智広さん（山階鳥類研究所保全研究室研究員）が、「小笠原での繁殖成功が意味するもの」をテーマにお話くださいました。

このプロジェクトは、70羽のヒナを伊豆鳥島から小笠原諸島の聟島に移送し、人工飼育で巣立たせ、かつての小笠原繁殖地を復活させようというものです。ここ数年の間に小笠原諸島の媒島、聟島、嫁島で繁殖が確認されました。

これまでの成果を、出口さんが、DNA分析の専門家や地元の関係者、日米共同プロジェクトチームのアメリカのメンバー、プロジェクトチームの統括者とともに、共著でアニマル・コンサベーション（ロンドン動物学会の学術雑誌）に発表しました。今日は、その内容について分かりやすく解説してくださいました。

これまで鳥島産まれ、聟島育ちのヒナの一定数が聟島に戻り繁殖をはじめています。また、同じ小笠原諸島の媒島や嫁島でも繁殖が確認され、確実に繁殖個体数は増えています。今では安定した大きなコロニーとなった鳥島の初寝崎コロニーの復活プロジェクトでは、最初の10年間は繁殖個体数が大きく増えませんでした。10年以上経て、やっと指数関数的に個体数が増えています。小笠原諸島の場合もこれになぞらえると、あと数年経て、ぐんと繁殖個体数が増えることが期待できそうです。

プロジェクトの最新情報と出口さんらの論文の詳細は、山階鳥類研究のＨＰから次のＵＲＬを参照ください。

http://yamashina.or.jp/blog/2016/11/albatross_paper_anim_conserv/

出口さんは、これまで、さまざまな生き物の保全・復元に対して、再導入という方法が多くの場合盲目的に行われてきた事を挙げられ、さらに活動の半分くらいは、プロジェクトのその後の評価が成されておらず、成否が不明であることを指摘されました。

小笠原のアホウドリ再導入のプロジェクトを今回報告したことは、今後のモデルケースとなる意味でも大切であることが分かりました。

なお、こうした論文の評価について、従来の引用数を指標としたインパクト・ファクトを重要視する方法から、近年ではSNSで話題に取り上げられる頻度やマ

スコミ報道の頻度なども加えたさまざまな要素を統合したオルトメトリクスという新評価の方法もあるということが紹介されました。そして、この評価方法では、今回発表した論文が上位1%にランクづけられ、各方面でいかに重要視されているかが分かりました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2016年Decemberの過去ログを見ています。

December20日Tuesday: 12月のてがたん行いました（2016.12.10）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

晴天の下、紅葉を見ながらの快適な観察会でした。

< 2016-12 >

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

観察会のテーマは「葉」。全体の輪郭や葉脈の走り方など、いろいろな樹木の葉の形の特徴を観察しました。写真は、ホウノキとイチョウの葉です。

鳥に食べられそうな赤い木の実もありました。写真は、植栽されたソヨゴ（モチノキ科）です。

google.co.jp

冬鳥のシロハラがハゼノキの果実を食べていました。

冬鳥ツグミの話で観察会を締めました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2016年Novemberの過去ログを見ています。

November 6日Sunday: JBFゲストトーク実施しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

JBFの2日目、鳥博2階多目的ホールにてJBFゲストトークを行いました。「はばたけ！しんはま！！～行徳野鳥観察舎と行徳鳥獣保護区のお仕事～」と題して、野長瀬雅樹さん（NPO法人行徳野鳥観察舎友の会主任研究員）にお話しいただきました。

かつての東京湾には広大な干潟が広がっていましたが、保護活動によってわずかに残された場所の一つが行徳鳥獣保護区です。鳥獣保護区では湿地環境の復元が行われ、鳥類の生息場所として適した環境を目指して整備が行われています。保護区の鳥類の調査では、一般的な鳥類の生息状況調査に加え、最近ではカモメ類の標識調査が行われ、日本で越冬するセグロカモメの繁殖地の解明などの研究で成果をあげられています。また、千葉県内で唯一の傷病鳥の保護施設である野鳥病院を併設しており、年間約400羽の鳥を受け入れて野生復帰を目指して保護しています。こうした活動を軸に、環境教育活動を展開していて、多くの市民の方に鳥を通じて環境を守ることの大切さを伝えいる施設です。

< 2016-11 >

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

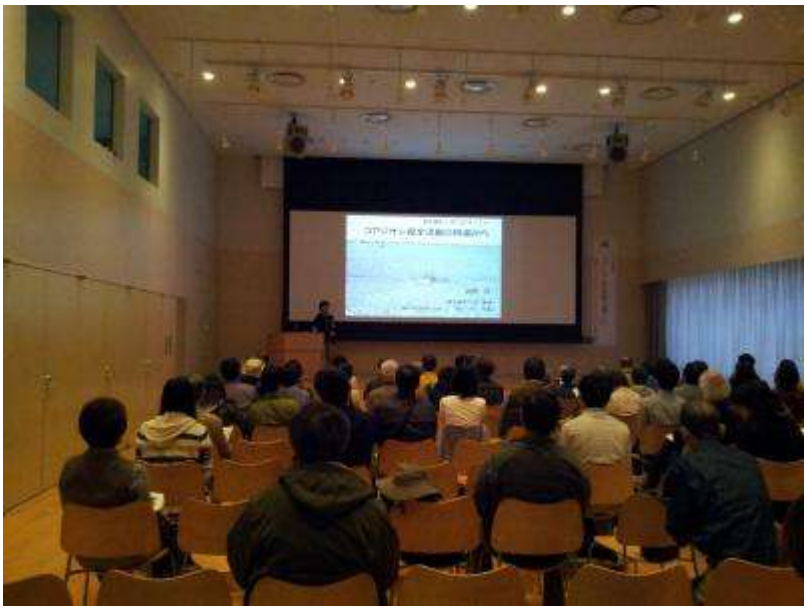
google.co.jp

ところが、2015年末をもって、行徳野鳥観察舎は耐震強度が弱いことを理由に無期限の休館になってしまいました。現在、野鳥病院と保護区の管理、観察会などの業務は継続されていますが、観察舎の再開は未定とのことです。鳥の魅力を多くの人に伝える素晴らしい施設が、1日も早く再開されることを願ってやみません。

ゲストトークにはのべ37名の方に来場いただきました。参加いただいたみなさま、講演を引き受けていただいた野長瀬さん、ありがとうございました。

November 5日Saturday: JBF鳥学講座「コアジサシ保全活動の現場から」実施しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya



JBFの1日目、アビスタ会場にて第26回鳥学講座を行いました。今回は「コアジサシ保全活動の現場から」と題して、北村亘さん（東京都市大学講師 / NPO法人リトルターン・プロジェクト代表）にお話しいただきました。

コアジサシは、小形のカモメの仲間で、夏になると南太平洋から日本に渡ってきて繁殖します。かつては日本全国で数多く見られましたが、近年では巣を作る裸地の環境が安定していないことなどから個体数が減少し、環境省のレッドリストでは絶滅危惧種に指定されています。北村さんたちのグループでは、2001年に東京都大田区の森ヶ崎水再生センターの屋上でコアジサシが営巣しているのを発見したのをきっかけに、この場所での保全活動を始めました。

森ヶ崎でのコアジサシの個体数を増加させるために、様々な対策が行われました。何もなかったコンクリートの屋上に土を入れ、生えてくる草本を抜いてコアジサシに好まれる環境が作られました。北村さんたちは、白い貝殻を撒くと地表面の温度が下がり、コアジサシに好まれることを実験によって発見しました。コアジサシは大きなコロニーで繁殖するため、内山春雄さん・我孫子市中学校と協力してコアジサシのデコイを作り、誘引を行いました。また、捕食者

であるカラスやネコから守るために、シェルターやカゴによる保護活動も展開したそうです。
こうした様々な保全活動により、ここ数年は森ヶ崎のコアジサシの個体数は1000羽を越え、安定した生息地となりました。現在の日本では最大の繁殖地だろうということです。

こうした保全活動は、市民のボランティアによる協力と、森ヶ崎水再生センター、大田区との協働によって行われています。リトルターンプロジェクトでは、こうした市民科学の取り組みの成功例として、他の団体にもそのノウハウを広めていきたいとのことでした。今後、日本のあちこちで繁殖するコアジサシを保全していくためのネットワークができることを楽しみにしています。

講演会には89名の方に来場いただきました。参加いただいたみなさま、講演を引き受けていただいた北村さん、ありがとうございました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2016年Octoberの過去ログを見ています。

October 8日Saturday: 10月のテーマトーク実施しました！（2016.10.8）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今回は、公益財団法人山階鳥類研究所自然誌研究室専門員の小林さやかさんに、「明治期の標本が語るものー絶滅鳥カロライナインコー」についてお話いただきました。

山階鳥類研究所が所蔵するカロライナインコの剥製標本3点の中の1点は、明治期に国立科学博物館が所蔵していた標本で、東京帝室博物館とアメリカのスミソニアン博物館と山階鳥類研究所の3つのラベルが付されています。それぞれのラベルには、標本番号はありますが、採集地や採集日に関する詳細なデータは書かれていませんでした。そこで、小林さんは、ラベルの標本番号をたよりに、国内外の各施設の標本台帳を調べ、この資料が、アメリカのフロリダ州シャーロット・ハーバーでジェームズ・ベルによって採集され、1881年8月11日に登録された標本であることをつきとめました。また、1882年のスミソニアン博物館の年次報告に、ジェームズ・ベルがフロリダで鳥類と爬虫類を採集した記録も見つけたそうです。

長年かけて集積された標本は、時代の趨勢により保管施設が移り変わり、付

< 2016-10 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信

帯する情報も消失しがちですが、現時点で可能なかぎりの情報を集約し、標本のデータベースを構築しておくことは、後生に活きる大切な仕事だと思いました。また、標本ラベルの情報から、付加情報を次々にたどっていく作業のお話には、さまざまな情報を整理しながら推理する探偵のような醍醐味を感じました。

鳥の博物館友の会

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2016年Septemberの過去ログを見ています。

September 4日Sunday: あびこ自然観察隊「鳴く虫観察会」実施しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

9月3日夕方に、あびこ自然観察隊「鳴く虫観察会」を実施しました。

まず、博物館前の草地で鳴く虫の仲間を捕まえました。草の中を動き回る昆虫を捕まえるのは大変ですが、みなさんがんばって何種類か採集できました。昆虫以外にも、カナヘビやアマガエルなどの生き物も捕まえて観察できました。

< 2016-09 >

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

捕まえたあと、博物館の玄関で何が捕れたか調べました。コオロギの仲間ではエンマコオロギやオカメコオロギ、キリギリスの仲間ではツユムシやウスイロササキリ、バッタの仲間ではショウリョウバッタやコバネイナゴなど14種のバッタの仲間を捕まえることができました。

館内で虫の鳴き声について予習した後、暗くなりはじめた草地に出て虫の声に耳をすませました。草地からはエンマコオロギ、オカメコオロギ、シバスズ、木の上からはアオマツムシ、カンタン、ツヅレサセコオロギなど、合わせて10種の鳴く虫の声を聞くことができました。
また、親水広場の上を飛ぶアブラコウモリや餌場へ向かうゴイサギなど、夜行性の生き物のくらしの一部も垣間見ることができました。

身近な草地にも、多様な昆虫がすんでいることを感じてもらえたと思います。
日没後は涼しい日も増えてきた今日この頃、夜に窓をあけて虫の声に耳を澄ませてみてはいかがでしょうか？

September 3日Saturday: 夏の遊びと研究大集合2016が終了しました②

カテゴリ: General　　投稿者: someya

夏のイベントの様子、まだまだご紹介します。

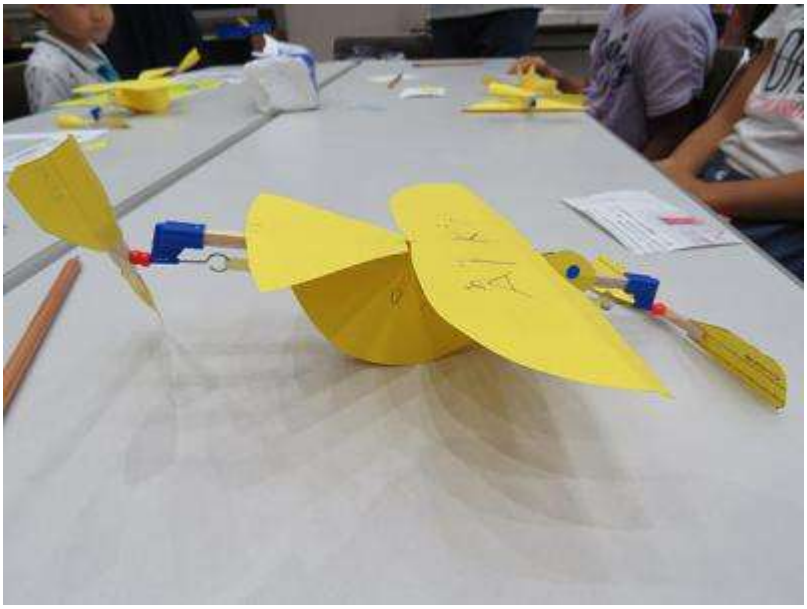
google.co.jp

「ばしゃばしゃペンギン」ペットボトルの工作が水の上をスイスイ♪

「実物大！羽図鑑をつくろう」羽を見つけたら図鑑を使ってみてね。

「土壌生物クマムシを観察しよう」土の中の生き物観察をしました。クマムシも発見！

「くるくる鳥ひこうき」くるくるあがっていく飛行機。みんなで飛ばしました。



September 3日Saturday: 夏の遊びと研究大集合2016が終了しました①

カテゴリ: General　　投稿者: someya

毎年夏休みに実施しているイベント「夏の遊びと研究大集合」が終了しました。全9回、多くの方にご参加いただきました。ありがとうございました。来年もお楽しみに！

各回のイベントの様子をご紹介します。

「ゴーストミミズク」魔女も登場しました。

「ブーブーカモ笛」面白い音色に思わず笑ってしまいました。

「メダカでアクアリウム」持ち帰ったメダカは元気ですか？

」

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2016年Augustの過去ログを見ています。

August17日Wednesday: 夏休みイベント開催中です

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

夏休みの恒例イベント「夏の遊びと研究大集合」が毎週土日に開催中です。鳥をテーマにした工作や生き物の観察など夏休みの自由研究のヒントになるようなイベントが盛りだくさんです！８月初めから始まったこのイベントは、これまでに２００人以上の方々に参加していただいています。

今週末のイベントは「ブーブーカモ笛」（土曜）と「土壌生物クマムシを観察しよう」（日曜）です。

< 2016-08 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

「ブーブーカモ笛」
風船を膨らませると元気よく鳴くカモ笛です。

「土壌生物クマムシを観察しよう」
様々な環境の土から土壌生物を探して観察します。
最後は実際にクマムシを観察しながら、その生態についてお話しします。

夏休みも後半！ぜひ鳥の博物館に遊びにきてください！
時間：１３時３０分から約1時間（１３時２５分開場）
定員：３０人（先着順）

google.co.jp

August13日Saturday: テーマトーク開催しました（2016.8.13）

カテゴリ: General 投稿者: saito

今日のテーマトークは、山階鳥類研究所自然誌研究室の齋藤武馬さんにお話いただきました。テーマは、「ミソサザイってどんな鳥？こんな鳥」でした。

かつての分類では、ユーラシア大陸、北米大陸にミソサザイという一つの種が分布することになっていましたが、近年の分子系統解析により、北米大陸のミソサザイの類縁が遠く、また北米の東西でも系統が二分されるということで、Eurasian Wren、Winter Wren、Pacific Wrenの三種に分けられるようになったそうです。

また、日本国内に分布するEurasian Wrenは、絶滅した亜種ダイトウミソサザイを含めて、亜種ミソサザイ、亜種モスケミソサザイ、亜種オガワミソサザイの4亜種に地域別に分類されていますが、分子系統解析では、伊豆諸島に分布する亜種モスケミソサザイだけが大きく類縁が遠いとのことでした。

さらに、国内のミソサザイのさえずりの研究も紹介され、渓流の音のような雑音の多いところで繁殖するミソサザイのさえずりほど大きな声で鳴き、沢から離れた山で繁殖するものは変化に富んだ声でさえずる傾向があるそうです。

繁殖生態についての説明もあり、はじめオスが外装だけの巣を何カ所か造り、そこを気に入ったメスが内装を造り、その後の抱卵、育雛もメスだけが行うそうで、これまで一夫四妻まで知られているとのことでした。同じように小型の小鳥のセッカも一夫多妻で繁殖することが知られていて、これと比べた子育て戦略も興味深いお話でした。

ミソサザイという鳥の生物学に関する総合的なお話で、この鳥に対する興味と理解が進みました。

August 9日Tuesday: あびこ自然観察隊「プランクトン観察と船上バードウオッチング」実施しました。

カテゴリ: General 投稿者: odaya

8月3日に、我孫子市役所手賀沼課と共催で、表題の観察会を実施しました。小学生7名、保護者4名の参加がありました。

自分たちで作ったプランクトンネットを使って採集しました。雷が遠くで鳴りだしたため、採集を切り上げざるを得なかったのは残念でした。

採集したプランクトンを鳥の博物館の館内に持ち帰り、顕微鏡で観察しました。写真は講師の柄澤先生から顕微鏡の使い方の説明を聞いているところ。実際に自分たちでとったプランクトンも見ることができました。

プランクトン観察の前には、船で手賀沼を1周して水鳥を観察しました。船に驚いて飛びだしたハクレンなどの魚を狙ってカワウが船についてきたのが印象的でした。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2016年Julyの過去ログを見ています。

July28日Thursday: ボランティアによる鳥博裏山の芝刈り完了

カテゴリ: General　　投稿者: saito

鳥の博物館友の会有志により、鳥の博物館裏山の芝刈りが行われました。職員が毎日往来する裏山の冷却塔や物置小屋へのアクセスが断然楽になりました。健全な里山維持という点でも大変助かりました。
草刈ボランティアの友の会有志の方たちに感謝です。

July 9日Saturday: 7月のテーマトーク開催しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

< 2016-07 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信

鳥の博物館友の会

google.co.jp

7月のテーマトークは、山階鳥類研究所保全研究室専門員の千田万里子さんに「鳥にまつわる法律の話」と題してお話しいただきました。千田さんは、保全研究室で日頃より調査の許可申請業務に携わっておられます。今回は、日頃バードウオッチャーや一般の方が遭遇する状況で、「この行為はやってもいいのかな」と迷うような具体的な事例に基づいて、その背景となる法律について解説していただきました。

日本で鳥の保護や管理にかかわる法律は大きく分けて3つあります。

（１）鳥獣保護管理法

鳥獣保護法では、基本的に野鳥は勝手に捕獲してはいけないこと、巣や卵の捕獲行為には許可申請が必要なことが定められています。狩猟期間や狩猟鳥獣について定められているのもこの法律です。傷ついた野鳥を保護したりする場合は、まず都道府県等の担当部署に連絡をして許可を得ることが望まれます。

（２）種の保存法

国際的に野生動物の取引を規制するワシントン条約の国内法です。この該当種（身近なところでは、オオタカ・ハヤブサなど）の羽毛を拾った場合、他の人に譲ったりすると違法となってしまいます。この該当する種の死体などを見つけた際には、死因の究明などのため、担当する環境省の地方環境事務所に連絡してほしいとのことでした。

（３）文化財保護法

この法律によって天然記念物または特別天然記念物に指定されている種を捕獲したり、対象種の巣を撤去したりする場合には、文化庁の許可が必要となります。

加えて、各地方自治体などが独自に条例で保護を定めている場合もあるそうです。また、対応の方法が微妙に異なることもあるので、詳しくは該当する市町村や都道府県の担当部署に問い合わせるのが最も確実とのことです。

鳥の羽や遺体を拾った際などには、どのように扱ったら良いか迷うことも多いと思いますが、該当する法律を理解して適切に対応したいですね。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2016年Juneの過去ログを見ています。

June11日Saturday: 6月のテーマトーク開催しました！

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

今回は、山階鳥類研究所自然誌研究室上席研究員の岡奈理子さんに「オオミズナギドリの持ち時間ーノネコが増えた海洋島の今ー」というテーマでお話しいただきました。

岡さんは、長年にわたって伊豆諸島の御蔵島でオオミズナギドリの生態調査に関わってらっしゃいます。近年では野生化したネコがオオミズナギドリ個体群に及ぼす影響について調査し、島からのノネコの排除に向けて精力的に活動されています。今回はオオミズナギドリの基礎的な生活史から、現在のノネコの生息状況と島外への持ち出しへの現状についてお話しいただきました。

御蔵島のノネコは現在500頭以上と推定されており、オオミズナギドリがいない冬期には集落の周りに集まるものの、それ以外の時期は島の広い範囲で確認されているそうです。オオミズナギドリの成鳥・幼鳥ともに多数の個体が捕食に遭っています。頭部だけながなくなっており、ほとんど食べられていない死体も多く見つかるそうです。これまでは、ノネコを捕獲し避妊・去勢手術を行ったあとで放獣する対策が取られていました。しかし、その後設置したセンサーカメラに写るネコのうち手術済みの個体の割合は低く、このままの対策を行っていてもノネコの個体数を減少させることは難しそうだとのことです。近年行われた調査から、オオミズナギドリは年間約2万羽のペースで減少しており、このまま減少が続けばあと30年あまりで御蔵島の繁殖コロニーが絶滅してしまう可能

< 2016-06 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

性すらあるそうです。島民の方と連携してネコの島外持ち出しの活動を今後も進めていかれるとのことでした。

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2016年Mayの過去ログを見ています。

May17日Tuesday: あびこ自然観察隊「シギ・チドリに会いに行こう」実施

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

5月15日（日）に我孫子市内の水田で渡り途中のシギやチドリを観察する自然観察会を行いました。12名の方の参加があり、JR新木駅から出発し、農道を歩きながら観察を楽しみました。チドリの仲間ではムナグロとコチドリ、シギの仲間ではキョウジョシギ、キアシシギ、チュウシャクシギ、トウネンの計6種が観察されました。我孫子市内の水田が彼らにとって重要な栄養補給場所となっていることを感じていただけたと思います。

農道からシギチドリを観察します。驚かして飛ばさないように早めに見つけて遠くから観察するのがポイントです。

< 2016-05 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

晴天と北風が心地よい日でした。合計26種の鳥が観察できました。

google.co.jp

May16日Monday: ５月のテーマトーク開催しました！（2016.5.14）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今回は、山階鳥類研究所保全研究室研究員の茂田良光さんにお話いただきました。テーマは、「シギ・チドリ類の渡りを追って」でした。

茂田さんは、渡り鳥のルート解明のための標識調査の専門家として長年さまざまな調査に携わっていますが、その中のシギ・チドリ類の調査を紹介いただきました。

シギ・チドリの仲間は、長距離の渡りをする鳥の代表です。この鳥の脚に野外でも識別できるカラーのマーク（フラッグ）を付けて、世界中の観察者から確認情報を得ることにより、渡りの経路が徐々に明らかになってきました。

お話では、特に日本でも渡来数が減少しているハマシギについて詳しく紹介してくださいました。ハマシギはバードウオッチャーの間ではなじみ深い鳥です。しかし、世界中の10亜種（同種の中で、地域によって繁殖隔離され、形態等に差の認めれた個体群）のうち、どの亜種が日本で越冬しているのか、これまで知られていませんでした。アラスカやカムチャツカ、サハリンなどの繁殖地でフラッグを付したハマシギが国内で観察されるようになり、その例数が増えるに

つれ、渡りの経路が徐々に明らかになってきました。
　このほか、キョウジョシギやシロチドリ、トウネンなどのフラッグ発見例も紹介されました。
　フラッグの発見報告の多くは、鮮明な写真によるもので、フラッグや足環に付した個体番号まで読み取れる例もありました。カメラの性能アップと熱心な観察者が増えることにより、多くの記録が残され、シギ・チドリの渡りルート解明に多いに貢献するものと思われました。
　国内の干潟の減少とともに、日本に渡来するシギ・チドリが年々減少していることが報告されています。渡り鳥のルート解明は、シギ・チドリの生息環境の保全に欠かせぬ情報です。
　このテーマに関心のある方は、ぜひ次のサイトをご覧ください。
http://yamashina.or.jp/blog/2013/05/shigi_chidori/

May15日Sunday: 新デザインのポロシャツ販売スタート

カテゴリ: General　　投稿者: someya

　ミュージアムショップでは鳥博オリジナルのポロシャツを販売しています。
　先日、ポロシャツに新デザインが加わりました。今回のポロシャツは、開催中の企画展キャラクターでもあるフクロウの「ゴロ助」の大きめな刺繍が入ったデザインです。「ゴロ助」は私がデザインしました。他にも我孫子市の市の鳥「オオバン」の刺繍が袖に入ったデザインも新たに加わりました。色は5色、薄手でこれからの季節におすすめです。
　ぜひ実物をご覧下さい。ご来館お待ちしています。

May 8日Sunday: Enjoy 手賀沼！2016開催

カテゴリ: General　　投稿者: someya

　「Enjoy 手賀沼！2016」に関連して、本日は無料開館日でした。館内も多くの来館者で賑わっていました。
　鳥博友の会の鳥絵同好会と鳥博が合同で「和紙で鳥のカードを作ろう」を実施しました。素敵なカードがたくさんできていました。

みなさん作業に夢中です

仲良し3人組のカードを撮影させてもらいました

とてもキレイ

May 8日Sunday: バードウィーク手賀沼探鳥会を実施

カテゴリ: General 投稿者: odaya

本日午前中に、我孫子野鳥を守る会との共催でバードウィーク手賀沼探鳥会を実施しました。一般の方41名、我孫子野鳥を守る会から38名の方が参加し、盛況でした。

集合時は風が強くひやひやしましたが、歩き出したころからは徐々に弱くなりました。ホオジロやオオヨシキリなどこの時期ならではの小鳥のさえずりもよく聞こえました。

植生の隙間からコガモやタシギを観察します。北に去る前の渡り鳥に加え、カワセミやカイツブリなど定番の留鳥も観察されました。

May 5日Thursday: イベント「鳥凧教室」実施（2016.5.5）

カテゴリ: General 投稿者: someya

本日は「鳥凧教室」を行いました。友の会の鳥凧同好会の皆さんと博物館が合同で行っているイベントで、毎年この時期に実施しています。
ビニール袋を使った鳥形の凧で、軽くてよく飛びます。
ご参加いただきましてありがとうございました。

オリジナルの模様をかきかき

みんなで記念撮影

青空にすいこまれるように凧が揚がっていきます
カラフルでキレイです

May 5日Thursday: イベント「飛べ！鳥の紙ひこうき」開催（2016.5.4）

カテゴリ: General　　投稿者: someya

ゴールデンウィーク中に紙飛行機のイベントを実施しました。航空力学にもとづいて作られた紙飛行機で、作製した後、飛ばし方も練習しました。
最後は外で飛ばしました。風が強い日でしたが、紙飛行機はスイスイ空を飛んでいました。
ご参加いただきましてありがとうございました。

紙飛行機について説明

折り方にもコツがありますよ

飛ばし方を練習

折り紙も2種類紹介

外でも飛ばしました

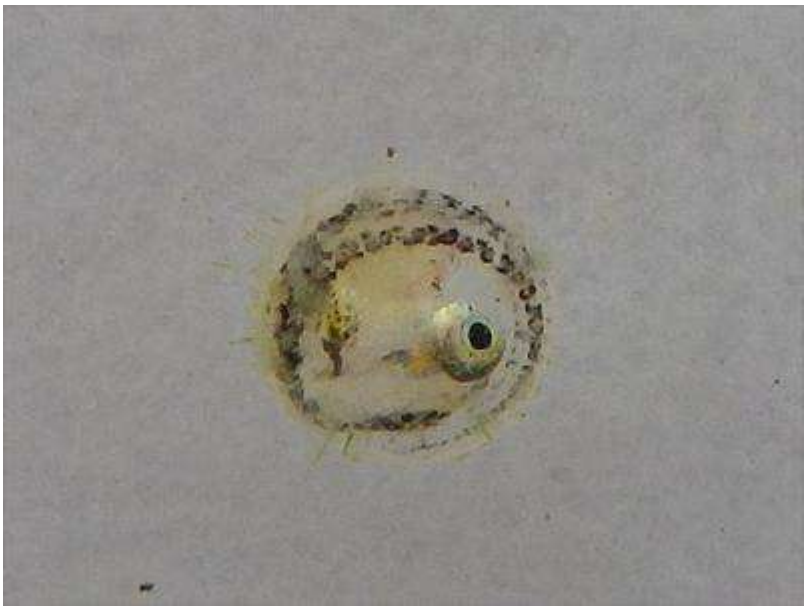
May 1日Sunday: メダカの稚魚誕生

カテゴリ: General 投稿者: someya

鳥博の3階ではミナミメダカ（以下メダカ）を飼育しています。
安定して産卵が見られるようになりましたので、卵を別の場所に移して観察をしていました（展示はしていません）。卵をそのままにしておくと、大人のメダカに食べられてしまう可能性があるため、別の水槽に移します。

本日、今シーズン初となる稚魚を確認しました。ちなみに、鳥博で観察中のフクロウのヒナも本日2羽目がかえりました（フクロウのヒナの情報はブログ「とりはく自然通信」をご覧下さい）。

成長が楽しみです。メダカの産卵は9月頃まで続きます。
8月にはメダカに関するイベントを実施予定です（実施日は未定です）。小さなメダカを見てみたい、飼育してみたい方は是非ご参加下さい。



数日前のメダカの卵
目の位置がよくわかります

本日確認したメダカの稚魚
体が透き通っています

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2016年Aprilの過去ログを見ています。

April22日Friday: あびこショッピングプラザで「あびこバードランド」が開催されます！

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

あびこショッピングプラザさんと鳥の博物館の連携企画
「あびこバードランド」が、４月２３日（土）からショッピングプラザ内で
開催されます。

この企画は、あびこショッピングプラザさんが企画する
「あにまるフェスタ」の中のイベントの一つで、我孫子の鳥に関する
パネルが展示され、市の鳥オオバンの生態やフクロウの子育てについても
知ることができます。
鳴き声や羽に関するクイズラリーもあるので、小さなお子さんから大人まで
楽しめる企画です。

< 2016-04 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

展示期間は４月２３日（土）は５月８日（日）です。
ご興味ある方は、ぜひお立ち寄りください。
詳しい開催内容は、あびこショッピングプラザのウェブサイトを
ご覧ください。

google.co.jp

April12日Tuesday: 4月のテーマトーク開催しました！(2016.4.9)

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日のテーマは、「オス？メス？見た目でわかる？雄化する鳥の謎」。山階鳥類研究所自然誌研究室の岩見恭子さんにお話いただきました。

外部形態では雄と判断したサンコウチョウの資料が、剖検の結果卵巣がありメスだった、というおどろきの発見から、その要因を解明するために行ったさまざまな調査や研究が紹介されました。

まず性染色体の異常を疑い、それを解明するためCHD遺伝子を調べた結果、性染色体の異常は否定され、また、卵巣が充分に発達していることから雌性ホルモンの分泌異常の可能性も少なく、この雄化のメカニズムの解明には他の遺伝子部位や内分泌器官の組織学的研究などさらなるアプローチが必要とのことでした。ではこの雄化したサンコウチョウは、繁殖の場面でどのような役割を演ずるのか興味あるところですが、実際に野外で雄化したメスのサンコウチョウが繁殖したという観察記録が地域の同好会誌に残されているそうです。

このほか、岩見さんらが発見した雄の死体に交尾するショウドウツバメの雄の驚きの映像も紹介されました。
http://www.momo-p.com/index.php?movieid=momo151125rr03a

動物の雄と雌との関係は、一筋縄では理解できないことがよく分かるお話でした。

また随所で、見慣れた現象でも先入観にとらわれず観察することが新たな発見につながることや、過去の標本資料の中に謎を解くさまざまな情報が含まれ

ていることが示され、示唆に富むお話でした。

April 1日Friday: 今年もフクロウの子育てがはじまりました！

カテゴリ: General 投稿者: muramatsu

鳥の博物館で市内の森に設置したフクロウの巣箱で
今年も子育てがはじまりました！

３月２９日の６時頃、メスが巣箱の中に座り込み始める。

同日の１８時１５分頃、１卵目を確認。

４月１日の３時３０分頃、２卵目を確認。

フクロウはメスのみが抱卵します。
その間、オスは外敵から巣を守りながらメスへ餌を運びます。
うまくいけば約１ヶ月ほどで、ヒナの姿が見られるでしょう！

博物館では現在、企画展「フクロウさんちの子育て日記」を開催しています。
館内にあるモニターでは、子育てのライブ映像もご覧いただけますので、
ご興味がある方は、ぜひ博物館へ足をお運びください。
展示期間：２月６日（土）から６月２６日（日）まで

今後のフクロウの子育てに関する記事は
博物館ブログ「とりはく自然通信」に掲載いたします。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2016年Marchの過去ログを見ています。

March13日Sunday: 3月のテーマトークを行いました（2016.3.12）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日は、山階鳥類研究所保全研究室の仲村昇さんにお話いただきました。テーマは、「ジオロケーターを装着したブッポウソウから分かった越冬地」でした。

ジオロケーターとは、毎日の日照時間を記録できる約1gのデータ蓄積装置で、日照時間を解析することで緯度経度が推定できるそうです（日照時間で緯度を南中時間で経度を推定）。軽量なので小鳥にも装着可能で、これをブッポウソウに取り付け、１年後に回収し、いつ、どこにいたのか推定します。誤差が大きく高精度の定位はできませんが、ダイナミックに移動する渡り鳥の越冬地を把握することは可能とのことでした。

ブッポウソウは、国内でも個体数の減少から、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧種に指定されています。これを保全するためには、繁殖地の環境はもちろん、越冬地や中継地の環境も把握しなければいけません。これまで、日本で繁殖するブッポウソウがどこで越冬しているのか充分には知られていませんでしたが、ジオロケーターを使った調査ではじめて越冬地（カリマンタン島）

< 2016-03 >

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

の確実な証拠が得られました。

国内の既知の代表的な繁殖地（高知県、岡山県、広島県、鳥取県、長野県、新潟県など）では、営巣場所の樹洞の不足を補うために巣箱を設置して個体数の維持を図っていて、特に岡山県、広島県、鳥取県では、効果が見られているとのことです。

今後は、ジオロケーターより定位精度の高いGPSロガーを使用しブッポウソウの動向を正確に把握したり、巣箱の設置方法を検討したり、効果的な保全対策につなげて行くそうです。

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2016年Februaryの過去ログを見ています。

February26日Friday: 鳥博セミナー「どうしてフクロウはかわいいの？」開催（2016.2.21）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

鳥博セミナー「どうしてフクロウはかわいいの？」を開催しました。

講師は、柏市在住の科学ジャーナリストの柴田佳秀さん。

フクロウのかわいさの要素、①大きな目、②つぶらなひとみ、③モフモフした羽毛を取り上げ、それぞれ夜行性のフクロウの生活に適した形態であることを映像や標本を使って詳しく分かりやすくお話してくださいました。

会場には定員一杯の来場者が集まり、企画展「フクロウさんちの子育て日記」と合わせて楽しんでいただけたようです。

February17日Wednesday: 鳥博セミナー「フクロウはどうしてかわいいの？」申し込み受付中！

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

鳥の博物館では現在開催中の企画展に関連し、
鳥博セミナー「フクロウはどうしてかわいいの？」を開催します。

< 2016-02 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

フクロウに関する著書や講演で活躍されている科学ジャーナリストの柴田佳秀さんを講師に招き、フクロウの魅力についてお話しいただきます。かわいいフクロウの姿には、どんな理由があるのでしょうか？ 申し込み受付中です。皆さん、ぜひご参加ください!

・日時：平成28年2月21日（日曜）午後1時30分から3時まで
・場所：鳥の博物館2階多目的ホール
・講師：柴田佳秀さん（科学ジャーナリスト）
・申し込み：あり　電話で鳥の博物館へ（04－7185－2212）
・定員：電話予約先着50人

February11日Thursday: 企画展「フクロウさんちの子育て日記」開催中！

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

２月６日から企画展「フクロウさんちの子育て日記」が始まりました。
我孫子のフクロウの子育てを中心にフクロウの生態や食性を紹介しています。
日本に生息するフクロウ科の鳥１１種も合わせて展示しています。
ぜひご来館ください！

展示期間：２０１６年２月６日（土）から６月２６日（日）

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2016年Januaryの過去ログを見ています。

January17日Sunday: 取手市の凧揚げ大会でグランプリ受賞！

カテゴリ: General　　投稿者: saito

我孫子市に隣接する茨城県取手市では、毎年お正月に凧揚げ大会が行われます。今年も、１月16日に開催されました。

鳥の博物館友の会の鳥凧同好会の方たちがエントリーした結果、上野さんと常田さんが、優秀賞を受賞されました。すばらしいです。

お正月から友の会は大活躍です!!

January13日Wednesday: 職場体験中

カテゴリ: General　　投稿者: someya

本日から2日間、久寺家中学校の2年生が職場体験で来館され、博物館の様々な仕事を体験してもらっています。

午前中は収蔵庫を中心に資料の収集・保存・展示の話を、午後はキャプションの説明・作製作業を体験しました。

明日は調査にも参加してもらう予定です。

< 2016-01 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信

鳥の博物館友の会

google.co.jp

January11日Monday: 鳥凧教室開講

カテゴリ: General　　投稿者: someya

1月10日（日）、毎年恒例「鳥凧教室」を実施しました。鳥の博物館友の会「鳥凧同好会」のメンバーと、講習を受けた市民スタッフが一緒になって、鳥凧の作り方を紹介しました。

鳥凧同好会のメンバーが活動の際に作製している鳥凧は、竹ひごを湯気で柔らかくして立体的につくった凧ですが、今回のようなイベントでは、お子様にも鳥凧づくりを楽しんでもらえるよう、軽くて飛ばしやすい凧をつくります。カラフルな凧が空を舞う姿は思わず笑顔になってしまう光景でした。

ご参加いただきましてありがとうございました。

凧は何色にしようかな、まずはビニール選び

作業に集中

翼の模様を描きます

画伯登場！オリジナルの模様をかきかき♪

できあがり！

カラフルな凧たちはスイスイあがっていきました

January 9日Saturday: １月のテーマトーク行いました（2016.1.9）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

１月のテーマトークは、山階鳥類研究所保全研究室研究員の富田直樹さんにお話いただきました。テーマは、「なかなか行けない海鳥の繁殖地ってどんなところ？」でした。

富田さんは、環境省が日本の国土の自然環境の変化を把握するために実施しているモニタリング1000（全国1000箇所程度のサイトでモニタリング調査を100年以上続けるプロジェクト）の中で、小島嶼の海鳥を担当しています。この調査でおとずれた島々の様子や調査の実際について、現地での写真をもとに紹介してくださいました。

小島嶼の調査サイトは30カ所。富田さんらは、ここを３年から５年に１回おとずれ、繁殖種や巣穴の数、個体数や植生を調査しています。

日本の小島嶼で繁殖する海鳥は37種程度であり、このうち23種が環境省のレッドデータブックに記載され、個体数の減少が危ぶまれる鳥たちです。これ

らの鳥の生息状況をモニタリングし、必要に応じて適切な手だてを講じなければ絶滅も危惧されます。野生生物の保全のためには、こうした地道な努力の積み重ねが大切であることがよく分かりました。

また、調査している島の中から７カ所の島の現況をお話してくれました。取り上げられた島は、ウミガラスの繁殖で有名な天売島、オオミズナギドリの大コロニーのある御蔵島、アジサシ類の繁殖する沖縄本島周辺の島々、ウミネコの繁殖地で有名な蕪島、アホウドリの保護活動で有名な鳥島、カンムリウミスズメの繁殖する沓島、ヒメクロウミツバメの繁殖する八丈小島です。

島によっては、ネコやネズミによるヒナの補食が海鳥の繁殖に大きな影響を与えているとのこと。いずれも人間活動によって持ち込まれた天敵です。

モニタリング1000を通じて、より正確なデータを収集し、保全のために有効な対策を提案するのはもちろん、これを成功させるためには地元の人たちの自発的な活動がなければ成り立たないというお話も印象的でした。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2015年Januaryの過去ログを見ています。

January14日Wednesday: １月のテーマトーク

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今回は、公益財団法人山階鳥類研究所保全研究室研究員の佐藤文男さんに、「絶滅危惧種クロコシジロウミツバメの生態と保全」をテーマにお話いただきました。

佐藤さんがこれまで40年間続けてこられた岩手県の三陸海岸の日出島では、クロコシジロウミツバメとオオミズナギドリが繁殖していますが、いずれも地上に巣穴を掘り、繁殖します。体の大きなオオミズナギドリの繁殖数が増加するにつれ、営巣場所をめぐる競争に負けたクロコシジロウミツバメの繁殖数が減少し続け、このままだと島内の個体群が絶滅してしまうとのこと。日本では、三陸沿岸のわずかな島でしか繁殖していない希少なクロコシジロウミツバメを保護するためには、島内での安定した繁殖巣数を確保しなければいけません。佐藤さんらは、クロコシジロウミツバメだけ通ることができる金網で地表を覆い、また地中に巣箱を設置し、オオミズナギドリとの競合を避けることができるようにして保全しています。

しかし、これを継続し、目的を達成するためには、文化庁や環境省など繁殖地の管理者が保全計画を立案し、実施するようにならなければ実現しません。

< 2015-01 >

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

そのための、保全の指針づくりと提案を行っているそうです。

今回お話いただいたクロコシジロウミツバメ以外にも、日本ではクロウミツバメ、ヒメクロウミツバメ、オーストンウミツバメ、コシジロウミツバメ、以上５種類のウミツバメの仲間が繁殖しています。この中で、北海道の島嶼で繁殖しているコシジロウミツバメ以外は、全て絶滅の危機にあり、環境省の絶滅危惧種に指定されています。種類によってそれぞれ絶滅の危機に瀕している主要因は異なりますが、その多くは人が持ち込んだネズミによる被害によるそうです。現在、ネズミ被害に対して、環境省による有効な対応策はとられておらず、すでに繁殖個体が消滅してしまった島もあるそうです。殺鼠剤の散布など、待った無しの早急な対策が必要であり、そのための働きかけと準備も進めているそうです。

一般的にはあまりなじみの無い海鳥が、人知れず絶滅していくということが無いようにしたいものです。

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2015年Februaryの過去ログを見ています。

February22日Sunday: 友の会メンバー有志による、裏山の竹伐採完了！

カテゴリ: General　　投稿者: saito

鳥の博物館友の会の有志が、鳥の博物館裏山の竹の伐採をしてくださいました。

< 2015-02 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

6人のメンバーは、お昼をはさんで、午前と午後、大活躍でした。

樹幹部を覆っていたモウソウチクを伐採して整理してもらったお陰で、裏山の斜面林の林床に光が差し込み、明るくきれいな林になりました。

February17日Tuesday: 2月8日テーマトーク行いました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

リンク

我孫子市鳥の博物館
フィールドミュージアム
ふくろうトピックス
とりはく自然通信
鳥の博物館友の会

google.co.jp

今日のテーマは、「ルリビタキの茶色い雄と青い雄は争い方が同じなのか」でした。山階鳥類研究所保全研究室支援研究員の森本元さんにお話いただきました。

ルリビタキのオスは、上面が瑠璃色の美しい羽毛を持つバードウオッチャーに人気の鳥です。一方、メスは地味な茶色です。本州では亜高山帯繁殖しますが、冬になると平地で見かけるようになります。

ルリビタキの若いオスは、繁殖可能であるにもかかわらずメスのような茶色い羽衣です。このように成鳥の羽衣を獲得するのが遅れる現象のことを羽衣成熟遅延（Delayed Plumage Maturation）と言い、いろいろな鳥の仲間で見られるそうです。

では、なぜ羽衣成熟遅延が起こるのか？

今日の話し手の森本さんは、富士山で繁殖するルリビタキが、なわばりを確立するためのオス同士の争いを詳しく観察しました。上面が完全に青くなったオス（青いオス）と繁殖可能だが若いオス（茶色いオス）の争いが、相手の組み合わせでどのように変化するのか調査し、その結果、相手の色のちがいによる争いの頻度には差が無いが、争いのパターンに差があることが分かったそうです。

つまり、青と青、茶と茶という同じ色同志の組み合わせでは、はげしい直接闘争に発展するのに比べ、青と茶という色の異なるもの同志では、間接闘争の追いかけまでで終わる場合が多いという結果が得られました。

この結果から、森本さんは、ルリビタキのオスは、なわばり闘争する際に、①実力が分からないあるいは拮抗しているときは、本気を出して争うのに対し、②実力差が事前に予測される場合は、儀式的な緩やかな闘争で済まされていることが分かり、お互いに、怪我等のリスクを避けてなわばりを保持・獲得できるという利益を得ているらしいと考察しています。

最後にメーテルリンクの青い鳥のお話を例に挙げ、チルチルとミチルが探しあてた青い鳥は、旅立つ前には茶色だった身近な鳥が青くなったものなので、羽衣成熟遅延のルリビタキがよくあてはまるというオチまで付けてくれました。

February10日Tuesday: あびこ自然観察隊「オーイ！冬鳥くん」実施

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

２月８日、あびこ自然観察隊「オーイ！冬鳥くん」を実施しました。手賀の丘少年自然の家との共催事業です。手賀の丘の林から丘を下り、田んぼの鳥、沼の鳥をじっくり観察しました。林ではウソやアオジなど、田んぼではタヒバリやツグミなど、沼ではコガモやオオジュリンなど多くの冬鳥と出会うことができました。
雨が心配されましたが、なんとか持ちこたえてくれて、最後の鳥合せをしていると本格的に降ってきてほっとしました。今後も鳥の博物館の自然観察会にご参加いただければうれしいです。

田んぼの中を歩いて鳥を探す参加者のみなさん。ノスリやカシラダカも見られました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2015年Marchの過去ログを見ています。

March23日Monday: 鳥博セミナー「野鳥の声を録音する楽しみ」開催しました。

カテゴリ: General　　投稿者: saito

（2015.3.22）

今回の鳥博セミナーは、第70回企画展「鳥の声展」の一環として実施しました。講師は、鳥類研究家として活躍されている日本野鳥の会顧問の松田道生さんです。テーマは、「野鳥の声を録音する楽しみ」でした。

鳥の声の録音を通じて得られたさまざまな体験やそれに基づく鳥の観察のコツをお話してくださいました。

鳥を見つける場合の声の重要性や鳥の生活と声の特徴に密接な関係があること、さまざまな鳥の声の音声学的な特徴、鳥の声を聞き分けるコツ、鳥の声の録音のコツとマナー、そして、鳥の声の謎解きのおもしろさなど、盛りだくさんな内容でした。

とても分かりやすく、ユーモアを交えたお話に、参加者は皆楽しんで聞くことができました。

March20日Friday: NHK取材班が当館の始祖鳥化石を撮影取材！

カテゴリ: General　　投稿者: saito

< 2015-03 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

「NHKダーウインが来た」の取材で、鳥の博物館の始祖鳥の化石レプリカの撮影が行われました。

March16日Monday: テーマトーク開催しました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日のテーマは、「明治・大正期の鳥類標本ー帝室博物館コレクションー」で、山階鳥類研究所自然史研究室の小林さやか専門員にお話いただきました。

山階鳥類研究所の標本は、さまざまなコレクターや施設のコレクションによって構成されています。その中の一つ、帝室博物館コレクションについてのお話でした。

帝室博物館は、現在の東京国立博物館の前身の博物館であり、明治33年（1900）から昭和22年（1947）まで運営され、大正14年（1925）まで天産部と呼ばれる自然史部門がありました。さまざまな歴史的経緯を経て、そこに所蔵されていた鳥類標本約3,300点が山階鳥類研究所にあるそうです。

その中には、例えば現在絶滅したと考えられるエスキモーコシャクシギや、絶滅したリュウキュウカラスバトのタイプ標本（種を記載する時の基準となる重

google.co.jp

要な標本）など重要な標本が多数含まれているそうです。
　ただし、山階鳥類研究所所蔵の台帳や標本ラベルの記載だけではコレクションの全体像が不明なため、小林さんは、各方面へ出向いて、当時の採集日誌や台帳を調べ、採集者や採集場所、採集日などの情報を収集し、帝室博物館コレクションをより完全なものにするための研究を続けているそうです。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2015年Aprilの過去ログを見ています。

April26日Sunday: ENJOY手賀沼！２０１５のご案内

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

５月１０日（日）にENJOY手賀沼！２０１５が開催されます。
ENJOY手賀沼！は、手賀沼とのかかわりを感じながら
楽しく一日を過ごすイベントで、様々な企業や団体が出店します。
会場は手賀沼親水広場です。鳥博のミュージアムショップも出店します！

毎年、このイベントはちょうど愛鳥週間（５月１０日〜１６日）に
重なっており、我孫子野鳥を守る会の方々が中心になって探鳥会も
開催されています。

昨年のバードウィーク手賀沼探鳥会の様子

また、当日は博物館は無料で入館できます。館内では鳥博友の会鳥絵同好会による工作イベント「ちぎり絵で鳥をつくろう」を開催します。
手賀沼周辺で一日楽しめるイベントなので、ぜひ遊びにきてください！

< 2015-04 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

「ちぎり絵で鳥をつくろう」

（１）バードウィーク手賀沼探鳥会
日時：５月１０日（日）９：００～１２：００（８：３０から受付開始）
集合場所：親水広場本部テント
定員：なし
申し込み：不要

（２）ちぎり絵で鳥をつくろう
日時：５月１０日（日）１０：３０～１２：００、１３：３０～１５：００
場所：鳥の博物館２階多目的ホール
定員：各回３０人
申し込み：不要（材料がなくなり次第終了）

google.co.jp

April11日Saturday: テーマトーク行いました（2015.4.11）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日のテーマは、「飛べないクイナ類の保全状況ーヤンバル・ロードハウ・ニュージーランドクイナー」でした。

クイナの仲間は、世界中に分布しますが、島に住み、無飛力で、絶滅の危機に瀕している種を多く含んでいるのが一つの特徴です。今日は、沖縄本島の北部の森林に住むヤンバルクイナ、オーストラリアのシドニーから東へ700kmの小島にすむロードハウクイナ、ニュージーランドにすむニュージーランドクイナ（現地名ウェカ）の保全の現状について、山階鳥類研究所副所長・保全研究室室長の尾崎清明さんにお話いただきました。

ヤンバルクイナは、沖縄本島の南部から侵入した外来種マングースの北方への分布拡大に合わせて、北部へと追いやられていましたが、計画的なマングースの駆除が功を奏し、分布域を南へ少しずつ押し戻しているそうです。マングース拡大を察知した早めの対応がよかったそうです。

ロードハウクイナは、人口300人という小さな島にすむクイナで、生息環境の減少やブタ、ヤギ、ネコ、イヌなどの影響で、1980年には30羽までに減少しました。その後、個体数のモニタリング調査や、全個体への標識、ネコの撲滅、ブタやヤギの駆除を徹底して行った結果、2015年には290羽にまで復活しました。

ニュージーランドクイナは、種としては10万～17万羽と一定の個体数がいると考えられていますが、４亜種あり、特定の亜種では個体数が少なく、保全が必要だそうです。ここでも減少の原因は、外来種の移入や森林環境の消失などです。

お話の中で、飛べないクイナがなぜ生じたのか？という問いにも触れ、飛べることは、移動や天敵からの逃避、採餌に有利であり、逆に飛べないことは、エネルギーコスト、定住性、大型化に対して有利であることから、島という天敵の少ない環境では、飛ばない道を選ぶのだそうです。

最後に、ヤンバルクイナに再び触れ、車の静音化によって、路上で轢死するケースが増え、また、最近では、ネコが新たな脅威となっているそうです。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2015年Mayの過去ログを見ています。

May24日Sunday: 鳥の博物館開館25周年記念講演を行いました（2015.5.24）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

鳥の博物館の開館25周年を記念して、林良博名誉館長（山階鳥類研究所研究所長、国立科学博物館館長）による講演会を行いました。「鳥の博物館のこれから」をテーマに、博物館を活性化するためのさまざまな経営上のヒントを聞く事ができました。参加者数60人と、会場の鳥の博物館の多目的ホールは、ほぼ満席となりました。質疑応答では、市長、教育長も参加し、活発な意見交換が行われました。

May 9日Saturday: テーマトーク行いました（2015.5.9）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

< 2015-05 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信

今日のテーマは、「バンディングってなあに？」で、山階鳥類研究所保全研究室専門員の吉安京子さんにお話いただきました。

一般には聞き慣れないバンディングという言葉ですが、これは鳥類標識調査のことで、鳥を捕獲し、標識（一般的には足環）を付けて放鳥し、再捕獲の記録を集めて渡りなど野鳥の移動経路を知ることを目的とした調査です。標識調査者をバンダーと呼んでいます。現在、標識調査は環境省の所管事業であり、山階鳥類研究所が委託を受けて実施しています。

一口に標識調査と言っても、野鳥を安全に捕獲する技術、鳥の種類や雌雄・成幼の識別能力、正確な計測や報告能力、第三者への説明能力など、さまざまなスキルが必要です。このための講習会が行われ、指導者が充分な能力があると認めた場合に、標識調査のライセンスが授与され、バンダーとなります。

最近の傾向として、このバンダーの数は減少気味（特に20歳代）で、高齢化が進んでいるのが課題とのことでした。多くのバンダーは、ボランティアです。若い、優秀なバンダーを数多く育てるためには、参加しやすい形で、経験をできるだけ積むことができるようなシステムが必要とのことで、今後は、各地域で経験を積んだバンダーが指導者となり、地域ごとにバンダー予備軍に経験を充分に積んでもらい、最終的に座学の講習会とバンダー適正を見極める試験を行うシステムを検討中とのことでした。

日本の鳥類の移動経路はもちろん個体群の動向をモニタリングしたり鳥類の識別に関する情報を蓄積整理するために欠かせぬバンディング、新システムがうまく機能して、若手バンダーが増え、日本の鳥に関する知見がどんどん増えるといいですね。

May 6日Wednesday: 「飛べ！鳥の紙ひこうき」実施しました

カテゴリ: General　　投稿者: someya

5月4日に「飛べ！鳥の紙ひこうき」を実施しました。この紙飛行機は航空力学に基づいて作ったものです。申し込み制のイベントでしたが、たくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございました。

鳥博で作製した後、みんなで外の広場にむかい、自分の飛行機を飛ばしまし

鳥の博物館友の会

google.co.jp

た。風が強かったので、行方不明の飛行機がでるのではないかとドキドキしていましたが、みなさん無事に自分の飛行機を持ち帰ることができたようです。

鳥と飛行機の違いは？トビの剥製を見せながらお話しました

みんなでジョキジョキ

市民スタッフの諏訪さんが飛行機のお話をしてくれました

完成した飛行機を室内で飛ばしました
スーッときれいに飛ぶ飛行機、クルクル回転して落下する飛行機、色々あります
飛ばし方を教わった後は、きれいに飛んでいました

外でも飛ばしました

さすが諏訪さん。諏訪さんが飛ばした飛行機はスイスイ飛んでいきます

May 1日Friday: 展示交流研修会を行いました

カテゴリ: General　　投稿者: someya

4月28日(火)に展示交流研修会を行いました。年に1回実施しています。

鳥の博物館では、展示交流スタッフが活動しています。展示交流スタッフとは、展示室での来館者との交流を主な活動とした、ボランティアスタッフのことです。

研修では、活動内容の確認や日頃の見直しなどを行いました。特に「これでいいかな」となれてしまったことを見直すのは大変なことですが、改めて活動姿勢を考えるというのはとても大切なことです。

来館者に楽しんでいただけるよう、私も展示交流スタッフと一緒に試行錯誤の毎日です。

展示交流スタッフによるガイド「ワゴントーク」では、現在「フクロウ」がテーマです。巣箱で子育てするフクロウの様子をライブ映像でご覧いただけます。この映像で子育ての様子が見られるのは5月下旬位までです。ヒナはみるみる成長していきますのでお見逃しなく！

※巣箱の様子は「ふくろう巣箱カメラ」や「とりはくしぜん通信」をご覧下さい。

ワゴントークの様子

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2015年Juneの過去ログを見ています。

June28日Sunday: 夏休みイベントのお知らせ

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

梅雨のジメジメした日が続いていますね。
そんな時期だからこそ、カラッとした気分になるような話題を！と思い、
まだ少し早いですが夏休みイベントのお知らせです。

博物館では7月から8月までの毎週土曜日曜に
「夏の遊びと研究大集合2015」を開催します。
身近な材料を使う鳥をテーマにした工作や生き物の観察イベントで、
毎週内容を変えて実施します。夏休みのヒントになるようなイベントが
盛りだくさんです。ぜひ遊びにきてください！

< 2015-06 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

June13日Saturday: テーマトーク開催（2015.6.13）

カテゴリ: General 投稿者: saito

google.co.jp

今日のテーマトークは、公益財団法人山階鳥類研究所広報主任兼自然誌研究室専門員の平岡考さんに「バードウォッチング入門 ～入門済みの人はちょっと復習～」をテーマにお話いただきました。

バードウオッチングの時の持ち物、服装、基礎知識、見分け方、生態系、フィールドマナー等々、これからバードウオッチングしてみたいなと考えている方への道しるべとなる内容でした。フィールドノートへの記録は、鳥の野外識別のために必要な頭の中のデータベースを構築するために有効な方法であるとのお話も印象的でした。

また、ベテランのバードウオッチャーにとっても、例えば鳥を識別するための事前の準備や意識して見るべきところ、鳥を見ることで生き物のつながりから環境全体への視点を持つことができることなど、バードウオッチングに対するそれぞれのとりくみ方を改めて振り返らせてくれる内容も含まれていました。

自然の中で、いろんな鳥を見ることは、理屈抜きに楽しいことですが、アプローチの工夫次第で、さらに楽しい、奥の深い世界が開けていきます。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2015年Julyの過去ログを見ています。

July25日Saturday: フクロウホバークラフトで遊ぼう！

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

今日の夏休みイベントは
「フクロウホバークラフト」でした。
材料は風船、フィルムケース、厚めのスチレンペーパーだけ。
風船の空気がフィルムケースを通ってスチレンペーパーに開けた穴から
流れることで、空気の層ができ、そっと押すと滑るように進みます。

すーっと滑るように進む様子は、まるで音もなく飛ぶフクロウのよう！？
ということでフクロウのイラストを貼り付けて完成です。

< 2015-07 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

工作をする前にフクロウが飛ぶときに羽音がでない仕組みを
翼の標本を触ってもらいながら説明をしました。

完成したらネズミの的をねらって遊びました。
次回のフクロウホバークラフトは８月２日日曜です。

明日は「メダカでアクアリウム」です！
水草とメダカで自分だけのアクアリウムを作ります。
飼育方法や生態についても説明します。
ぜひご来館ください。

July25日Saturday: 鳥の科学作品コーナーを設置しました！

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

夏休みがはじまって１週間。

google.co.jp

博物館には自由研究の相談がちらほら増えてきました。
鳥の子育て観察や拾った羽の持ち主探しなど
子どもたちは興味を持ったきっかけから熱心に話してくれます。

館内では自由研究の参考になるように、夏休み期間中、
昨年度の我孫子市内の小・中学生が製作した鳥に関する科学作品を
展示しています。手賀沼でみられる鳥を図鑑にしたものや
手羽先の骨格標本づくりなど計１２点の作品を一階ロビーにて
ご覧いただけます。中には自分でカラスの巣を再現してみたという
おもしろい作品もあります。
鳥をテーマに自由研究をしたい！と思っている人は
ぜひ博物館に遊びにきてください。

展示期間：７月１８日（土）から８月３０日（日）まで

July22日Wednesday: ミニ手賀沼を生き物でいっぱいに

カテゴリ: General　　投稿者: someya

7月19日の日曜日、午前中に手賀沼親水広場でイベントがあり、お手伝いに行ってきました。
広場には手賀沼5,000分の1の「ミニ手賀沼」があります。ミニ手賀沼の水生動物調べと水草の植栽が行われました。
暑い中、たくさんの方にお集まりいただきました。ありがとうございました。ミニ手賀沼の生き物たちが賑やかになっていくことが楽しみです。

いざミニ手賀沼へ

どんな生き物がいるかな

生き物を種類ごとに分けてプラケースに入れていきます
この時間は私にとって最高に楽しい時間♪魚を見ながらワクワク

いろいろな生き物がいました

水草を植えました

July22日Wednesday: ダチョウの全身骨格登場

カテゴリ: General　　投稿者: someya

7月19日の日曜日に夏のイベントの第2弾を実施しました。今回はダチョウの全身骨格を組み立てて、ダチョウがどんな鳥かを知っていただこうというイベントです。このイベントは大学生のボランティアスタッフと市民スタッフが担当しました。

全て組み立てるとその大きさに驚きます。羽や卵もお見せしました。このイベントは8月にも行いますので、見逃してしまった方は次回ぜひご来館下さい。3階の世界の鳥コーナーにはダチョウの標本もあります。合わせてご覧いただくとよりダチョウに詳しくなれるはず。

イベントスタート

大学生スタッフがダチョウのクイズを出しながら、お話しました
こどもも大人もダチョウの秘密に釘づけです

市民スタッフが骨格を紹介しながらお話しました

最後には羽をさわりました

July18日Saturday: 夏の遊びと研究大集合スタート

カテゴリ: General　　投稿者: someya

毎年夏休み期間に実施している「夏の遊びと研究大集合2015」が本日からスタートしました。7月18日から8月23日までの毎週土曜日・日曜日の13時30分から実施します。

本日はその第1段で工作「ブーブーカモ笛」を行いました。みなさんブーブーと音をならしていました。思わず笑顔になってしまうようなそんな音色です。

ホームページではイベントスケジュールを紹介しています。夏休み中、お出かけの場所に迷ったら鳥の博物館で決まり！

剥製をみせながらカモのお話をしました

研修で来ている小学校の先生にもお手伝いいただきました

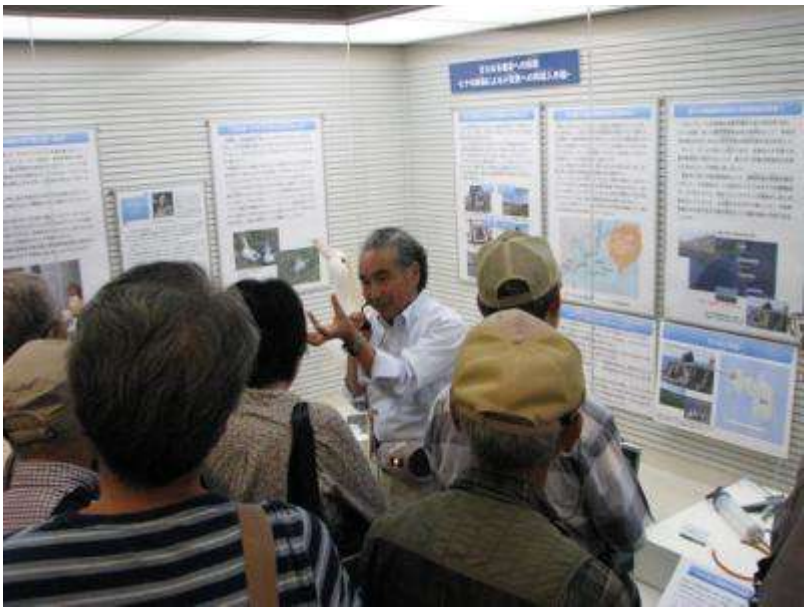
工作の完成にワクワク

July11日Saturday: テーマトークを実施しました（7/11）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日のテーマトークは、本日オープンの企画展にちなみ、「アホウドリ復活から学ぶこと」をテーマに山階鳥類研究所保全研究室研究員の佐藤文男さんにお話いただきました。

これまでに実施されたアホウドリの保全作戦とその成果と今後についてのお話の後、日本の希少種全体の保全の現状と困難さについて紹介いただきました。



テーマトーク終了後、企画展示室にて、佐藤さん自らアホウドリ展の案内をしてくださいました。アホウドリの生態や鳥島での歴史、保護活動の実際について、当事者ならではの興味深いお話を沢山聞くことができて、参加者は皆大満足でした。

July11日Saturday: 第72回企画展「アホウドリ展–復活への挑戦–」が始まる！（7/11〜9/6）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

アホウドリ展のおもな展示を紹介します。ぜひ、博物館に足を運んで実物を見てください。飛翔シーンを一目見ると、きっとアホウドリファンになるでしょう。

企画展示室入り口にはアホウドリの飛翔シーンの映像が流れています。

アホウドリの仲間の剥製の展示

1000年前のオホーツク文化圏の遺跡から出土したアホウドリの骨角器を公開。

アホウドリのリアルサイズの写真と背比べのコーナー

にぎやかな鳥島のアホウドリ集団繁殖地を映像で体験！

デコイ作戦とは？デコイ作戦で活躍したデコイも展示！

小笠原への再導入作戦とは？ヒナの移送や飼育に使われた道具の展示。

リアルサイズのヒナのぬいぐるみを持ってみよう！ヒナ輸送箱の重さも体験できる。

アホウドリ展オリジナルスタンプ（アルバちゃん）コーナー

アホウドリの未来と今後の課題を考えてみよう。

ところで、なんでアホウドリという名前なのか？展示では、解説が見あたりません。でも展示のなかにヒントが！

July 2日Thursday: 鳥博ホームページをリニューアルしました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

鳥博日誌ブログをご利用の皆様、いつもありがとうございます。
７月１日より、鳥の博物館のホームページをリニューアルしました。
より検索しやすく、親しみやすく、内容も充実したものにして行きたいと思います。
これまでと同様、新ホームページをご利用ください。
URLは次のとおりです。
↓
http://www.city.abiko.chiba.jp/bird-mus/index.html

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2015年Augustの過去ログを見ています。

August 9日Sunday: 夏休みイベント「実物大！羽図鑑をつくろう」

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

今週末に開催した夏休みのイベント
「実物大！羽図鑑をつくろう」をご紹介します。
羽をスキャンして実物の大きさで図鑑をつくります。
裏には採集日、採集場所、種名、羽の部位が書いてあります。

キジバトやカルガモなど身近な鳥の羽を集めました。

< 2015-08 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信

工作の前に博物館からの指令「この羽は誰の羽？」を
クリアしなければなりません。
正解は博物館に展示しているホロホロチョウの羽。
羽の斑（模様）から探してもらいました。

続いての指令は「この羽は誰のどこの羽？」です。
今度は斑ではなく、羽の形から探します。
風切羽の初列と次列の違いや尾羽の羽軸の位置など、
羽パネルと見比べながら正解を探します。
参加者のみなさん、羽の部位までちゃんと探し当てることができました。

夏休みのイベントは８月２３日までの毎週土日に開催しています。
ご興味ある方は、博物館HPをご覧ください。

August 8日Saturday: ８月のテーマトークは、アホウドリのお話の

鳥の博物館友の会

google.co.jp

第二段！（2015.8.8）

カテゴリ: General 投稿者: saito

今月のテーマトークは、山階鳥類研究所保全研究室研究員の出口智広さんにお話いただきました。鳥の博物館で開催中の企画展「アホウドリ展–復活への挑戦–」に合わせ、先月に引き続き、アホウドリのお話です。テーマは「小笠原へのアホウドリ再導入作戦のこれまでの成果」について。アホウドリ再導入作戦は、先月26日に放映されたNHKスペシャル「小笠原の海にはばたけ～アホウドリ移住計画～」で紹介されたばかりなので、ご存知の方も多かったはず。

今日は、番組では扱われなかった詳しい保護活動の成果のデータ紹介のほか、野生生物の再導入とは何か？完成はいつなのか？、また、今後のアホウドリの保全活動に必要なこと、①研究・保護活動、②ステークホルダーとの調整、③アウトリーチ、④ファンドレイジングなど、いろいろ考えさせられる示唆に富んだお話でした。

August 8日Saturday: 学芸員実習最終日

カテゴリ: General 投稿者: muramatsu

昨日は学芸員実習の最終日でした。
実習の最終課題である来館者へのスポットガイドを実施しました。
自分でひとつ鳥を選び、標本やパネルを使って解説するもので、
4人の実習生が選んだ鳥はオシドリ、オオルリ、ハヤブサ、フクロウ。
トークの内容から道具選びまで、すべて自分たちで企画しました。

来館者にどうやって興味を持ってもらうか、
分かりやすく伝えるためには、どのように話をすればいいのか。
話の内容だけでなく、はじめの声のかけ方や話の組み立て方など
実習生のそれぞれの分野で活かせる経験になったのではと思います。

短い期間でしたが、集中して実習に取り組んでいました。
実習生のみなさん、お疲れさまでした。

August 5日Wednesday: ゴーストミミズクあらわる！

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

夏休みイベントのひとつ「ゴーストミミズク」をご紹介します。

魔女が、おばけのもとをカップに入れ、魔法の水を注ぐとモコモコと
ミミズクのゴーストがあわれる不思議な工作！

魔女の使いのカラスに扮した大学生スタッフたちが工作をお手伝い。

完成していよいよ魔女に、おばけのもとを入れてもらいます。

ゴーストミミズクがあわられると、子ども達は興味津々！

みんながゴーストミミズクを呼び出すと、あたりには入浴剤の香りが。
工作の仕掛けは発泡性入浴剤の炭酸ガス。
傘袋、プラスチックのコップ、入浴剤で簡単につくれます。
次回のゴーストミミズクは8月16日（日）です。
魔女役のボランティアスタッフがみなさんをお待ちしています。

August 2日Sunday: 学芸員実習生奮闘中

カテゴリ: General　　投稿者: someya

7月31日から8月7日まで、学芸員実習を行っています。学芸員実習とは学芸員の資格取得に必要な実習で、今年は4名の学生が実習に来ています。学芸員の仕事を見て・体験してもらうことで、学芸員の日常を知ることができます。
今回はその様子の一部をご紹介します。

毎月第2土曜日に実施している観察会「てがたん」の下見に同行しました。
8月のテーマは「手賀沼の魚」。参加者になったつもりで、釣り竿を作りまし

た。
いざ、沼へ。

ボランティアスタッフ達と一緒に釣りをしました。
みんな暑さを忘れて真剣です。
全員釣れたところで終了しました。

「どうやって外せばいいんですか。」
針から魚をはずすのも初めての経験です。

タモロコ、モツゴ、オイカワなどが釣れました。

「てがたん」当日は釣り竿づくりと釣りの他、もんどりにかかった魚も見ます。ご興味のある方は暑さ対策を万全にして、ぜひご参加下さい。

August 2日Sunday: メダカを知ろう

カテゴリ: General　投稿者: someya

夏のイベント「メダカでアクアリウム」を実施しました。
手賀沼周辺で採集したメダカを鳥博で増やしていて、今シーズンもたくさんの稚魚がうまれました。イベントでは2匹から4匹のメダカを配りました。
自分の家を思い浮かべ、メダカを飼育できる場所があるか、みんなで考えました。
みなさん飼育できるということが確認できたので、メダカをお持ち帰りいただきました。

メダカってどんな魚かな

水草が涼しげです

ジュースのカップに水草を植えます

アクアリウムの完成
みんな大きく育ってね

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2015年Septemberの過去ログを見ています。

September27日Sunday: 記録映画「鳥の道を越えて」映写会＆トークを開催しました（2015.9. 26）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

「鳥の道を越えて」の映写会＆トークの集いを開催しました。定員一杯の150人の方々に参加いただき、大盛況でした。

< 2015-09 >

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

映写会終了後、監督の今井友樹さんと監修者の山階鳥類研究所の佐藤文男研究員の対談も行われ、この映画の背景についてより一層理解を深めることができました。

http://www.torinomichi.com/%E6%98%A0%E7%94%BB%E7%B4%B9%E4%BB%8B/

September15日Tuesday: 第73回企画展始まる！

カテゴリ: General　　投稿者: saito

第73回企画展「飛んでる鳥展–飛翔型コレクション–」がはじまりました。
約150点の飛翔型剥製標本による展示の様子をご覧ください。
翼の形と鳥のくらしの関係が分かります。

google.co.jp

ここが入り口。

翼の構造と働きと飛ぶメカニズムの解説。

飛翔型標本の展示の様子01

翼の形と飛行特性の解説。

初公開のコンドル、翼開長約2m70cm。

飛翔型標本の展示の様子02

飛翔型標本の展示の様子03

スタンプコーナー。

オオヨシキリとメボソムシクイとウグイスの翼を比べてみると･･･。

アオジとホオジロとカシラダカを比べてみると･･･。

オオジシギとタシギを比べてみると･･･。

翼の構造の分かる標本。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2015年Octoberの過去ログを見ています。

October29日Thursday: JBFのボランティア説明会

カテゴリ: General　　投稿者: someya

10月25日の日曜日、10月31日と11月1日に開催する鳥のイベント「ジャパンバードフェスティバル」（以下JBF）で活躍いただく、ボランティアの説明会を実施しました。

JBFは国内最大級の鳥のイベントで、毎年多くの方にご来場いただいています。今年で１５周年です。みなさんと一緒に盛り上げていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

JBF当日は鳥の博物館も無料開館します。この機会に、ぜひご来館下さい！

説明会の様子

October29日Thursday: 鳥博でラジオ公開生放送

カテゴリ: General　　投稿者: someya

10月24日の土曜日、鳥の博物館を会場として、FMラジオの公開生放送がありま

< 2015-10 >

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

した。
「あの頃青春グラフィティin我孫子市」と題して、パーソナリティの岡野美和子さんがゲストと色々なお話をしました。
来場いただいた皆様、ありがとうございました。

google.co.jp

パーソナリティの岡野さん（左）と星野我孫子市長（右）

斎藤館長も出演

ステージでは手賀沼のうなきちさんも見守っていました

October10日Saturday: 10月のテーマトーク行いました（2015/10/10）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日のテーマトークは、「ウグイスの亜種の謎をDNAで調べたら」をテーマに、山階鳥類研究所自然誌研究室の浅井芝樹研究員にお話いただきました。

はじめに、亜種とは何か、またDNAを用いた系統分類の手法についての解説があり、その後のお話がよく理解できました。

梶田ほか（2002）により、沖縄島で見られるウグイスは色彩や計測値から二つのグループに分けられ、一つは絶滅したとされる亜種ダイトウウグイスであり一年中見られ、もう一方は亜種リュウキュウウグイスで冬期のみ見られることが報告されています。

このことについて、ミトコンドリアDNAを用いて確認したのが、今回のお話しでした。また、亜種リュウキュウウグイスの繁殖地は未定ですが、樺太産のウ

グイスのサンプルと遺伝的な差がほとんど無いという結果が得られました。
　そして、ミトコンドリアDNAの分析では、現時点ではチョウセンウグイスグループ、ハシナガウグイスグループ、その他のグループにしか分けることができないが、今後は大きなひとくくりとなったその他のグループについて核DNAのマイクロサテライトを比較し、分析を進めたいとのことでした。今後の研究成果が楽しみです。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2015年Novemberの過去ログを見ています。

November 1日Sunday: ジャパンバートフェスティバル開催！

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

今年も我孫子市で鳥をテーマに楽しむイベント
「ジャパンバードフェスティバル」（以下JBF）が
10月31日（土）と11月1日（日）に開催されました。
毎年、全国からたくさんの団体に参加いただいています。

JBF期間中、博物館は入館無料！
博物館内ではコウノトリの帽子作りや展示をみて答えるクイズを実施しました。

またJBF出展者の中からゲストを招いて鳥に関する研究や日頃の活動に
ついてお話いただくゲストトークも開催しました。
今年のゲストトークのタイトルは「チョウゲンボウと十三崖の魅力」でした。
ゲストは長野県中野市でチョウゲンボウの研究をされている本村健さん。
JBFでは十三崖チョウゲンボウ応援団（中野市教育委員会事務局生涯学習課）の
ブースを出展されています。

< 2015-11 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

google.co.jp

長野県中野市にある「十三崖のチョウゲンボウ繁殖地」は、
世界的にも珍しい崖地の集団営巣地として、国の天然記念物に指定されています。
会場は満員御礼！チョウゲンボウの生態や十三崖についてのお話だけでなく、
チョウゲンボウを研究するまでの経緯や現在の活動の苦労などもお話いただき、
これから鳥類の研究に取り組む人にとっても非常に参考になる内容でした。
参加していただいた皆様、ありがとうございました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2015年Decemberの過去ログを見ています。

December12日Saturday: 12月のテーマトーク実施しました（2015年12月12日）

カテゴリ: General　　投稿者: saito

12月のテーマトークを行いました。

今日のテーマは、「鳥類学とバイオミメティクス～鳥をまねした物づくり～」で、山階鳥類研究所自然誌研究室の山崎剛史さんにお話していただきました。

バイオミメティクスというあまり聞き慣れない言葉ですが、生物模倣と訳され、生き物の機能をまねて人のくらしに役立つ様々な技術への応用を目指す研究です。

お話では、まず、生物の機能のすぐれた点として、素材が分解されること、レアアースなど限られた資源が不要なこと、常温・常圧ですぐれた機能を発揮することが紹介され、バイオミメティクスは、省エネ、循環型の持続可能な社会に適した技術であることが分かりました。

はじめに、無反射素材として注目されるモスアイフィルム（ガの眼の構造の応用）やどんな材質にも跡を残さずしっかりくっつきまた剥がすことのできるヤモリテープなど、製品化されつつある技術が紹介されました。

< 2015-12 >

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

次に本題の鳥のバイオミメティクスのお話があり、小型で軽量、静かで安定した、しかも省エネ飛行できるはばたき飛行機の一例として、ドイツのFESTO社のSmart Birdについて飛行映像とともに紹介されました。

さらに、「トビが油揚げをさらう」かのように、前進飛行しながら足で物をつかむ能力を応用したペンシルベニア大学が開発した飛び出す足を持つドローン型飛行機も紹介されました。この応用として、樹の枝に止まることのできるドローンも研究中とのことでした。

この他、嘴ではげしく樹木を穿孔するキツツキがなぜ脳震盪をおこさないのか、その衝撃吸収のしくみも紹介され、身の周りに生物のすぐれた機能があふれていることが分かりました。

最後に、現在山崎さんが工学系の研究者と共同研究しているフクロウの仲間の翼の消音のメカニズムに関する研究が紹介され、この分野がこれからどんどん発展していく新分野である可能性を伺い知ることができました。

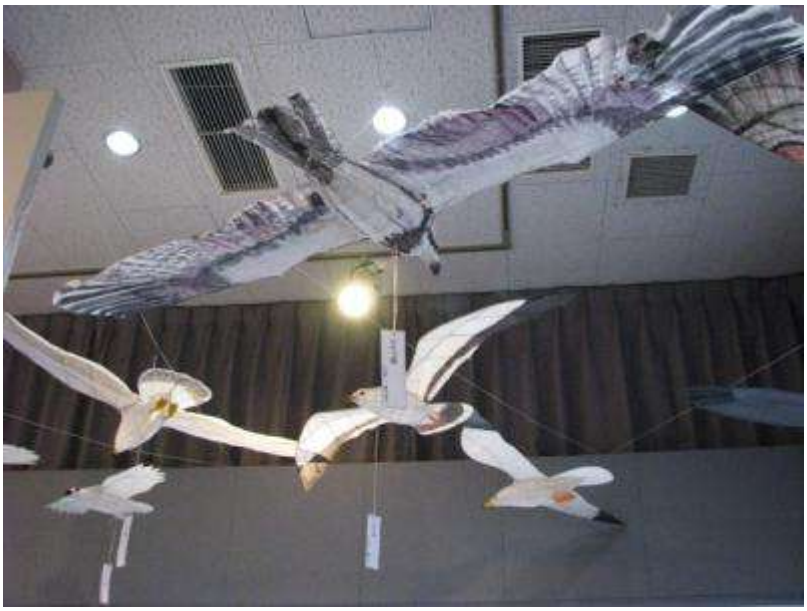
google.co.jp

nucleus

December12日Saturday: 第12回友の会展はじまる

カテゴリ: General　　投稿者: saito

12月12日（土曜日）から第12回友の会展がはじまりました。
会員の活動の記録や作品が多数展示されています。
また、今回のテーマは、「手賀沼の遊歩道でバードウオッチング」ということで、身近に見られる鳥が写真と手作りのジオラマで紹介されています。
ぜひ、ご覧ください。



鳥凧同好会の作品が、天井狭しと飾られています。

見て歩こう会の活動記録紹介コーナーです。今年も精力的に活動しました。

デジカメ同好会の方たちの撮影した全国、全世界の鳥の写真が楽しめます。

鳥絵同好会の皆さんのこの一年の作品紹介コーナーです。それぞれの作品へのこだわりが感じられます。

万葉同好会の皆さんが、万葉集に登場する鳥を取り上げ、歌とともに紹介しています。

最後に、今回のテーマである「手賀沼の遊歩道でバードウオッチング」のコーナーが設けられています。遊歩道で見られる鳥の写真や会員手作りのジオラマで、手賀沼の全容とウオッチングのポイントが分かります。
お持ち帰り出来る「手賀沼の遊歩道でバードウオッチングー冬に見られる鳥84種のパンフレット」もあります（数に限りがあるのでお早めに）。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2014年Decemberの過去ログを見ています。

December14日Sunday: 12月13日（日）、山階鳥研職員によるテーマトークが行われました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今回は、山階鳥類研究所保全研究室の千田万里子さんに、南大東島（沖縄県）で子育てするモズのお話をしていただきました。

南大東島のモズがすみついた歴史は浅く、1970年代中頃から80年代後半にかけてはじめて見られるようになったそうです。また、モズの繁殖地の南限といわれる種子島からさらに南東に約500km離れた孤島という、モズの分布から見ると、地理的にも特別な場所とのことで「絶海の孤島で生きるモズの子育て戦略」というタイトルのお話でした。

はじめに、南大東島のモズの子育てについて、造巣、産卵、抱卵、孵化、育雛と繁殖ステージに沿って写真で分かりやすく示してくださいました。

その上で、南大東島のモズの子育て戦略ののお話をしてくださいました。南大東島で繁殖するモズは、雌雄で寿命がちがい、メスは2年以上生きるものが少なく、オスに比べて短命なのだそうです。また、雌雄で、餌をたくさん与えたがるヒナの大きさに差があるそうです。これは、繁殖のチャンスが少ない短命なメス

< 2014-12 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

検索

検索

ナビゲーション

前の月
次の月
今日の投稿
過去ログ

カテゴリ

全てのカテゴリ
General
お知らせ
今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

我孫子市鳥の博物館
フィールドミュージアム
ふくろうトピックス
とりはく自然通信
鳥の博物館友の会

がより多くのヒナを育てたいのに対し、繁殖のチャンスが多いオスは、より大きな丈夫なヒナを育てようとしているからかも知れないとのことでした。

同じ種でもそれぞれの立場がちがえば目標もちがい、どのあたりで折り合いをつけているのか考えさせられる興味深いお話でした。

南大東島は、モズにとって、カラスやヘビなどの天敵が少なく、気候温暖で餌も豊富なすみよい場所に思われますが、一方で、台風の通り道であり、マラリアの感染率も高く、主食となるバッタの寄生虫が原因でコブが出来ることもあり、新参者のモズにとっては、まだまだ苦労が多いようです。

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2014年Novemberの過去ログを見ています。

November 3日Monday: ジャパンバードフェステリバル２日目は晴れました。

カテゴリ: General　　投稿者: saito

２日目、鳥の博物館では、ゲストトークを水の館３階研修室で行いました。
今年のゲストトークのゲストは、千嶋淳さん（NPO法人日本野鳥の会十勝支部）。

< 2014-11 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信

海鳥・海獣の生態研究と保護を地域の団体が連携して取り組む活動について紹介していただきました。海鳥のすばらしい写真をふんだんに見せてくださいました。

２日目はお天気も回復し、屋外の広場にも人がたくさん集まり出しました。

鳥の博物館友の会

google.co.jp

館内で行った鳥博クイズも盛況でした。

多目的ホールでは、塗り絵が人気です。

今年のJBFも無事終了しました。期間中約3,500人の方にご来館いただきました。ありがとうございました。

November 1日Saturday: ジャパンバードフェスティバル２０１４始まる！！

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今年もジャパンバードフェスティバルが始まりました。雨模様のお天気が少々心配。

9時30分、鳥博広場にも人が集まり出しました。

会場を結ぶシャトルバスの運行も順調です。

鳥の博物館のミュージアムショップも鳥博広場に出店しています。

鳥の博物館内では、企画展「山階コレクション展」を開催中！

鳥博ボランティアによる館内のイベントも順調！

お隣の山階鳥類研究所では、見にレクチャー（ミニレクチャー）が行われています。

今年の鳥学講座も大盛況！川上和人さんに「恐竜だって本当は鳥みたいになりたい」を語っていただきました。

夕方のレセプション。実行委員長のご挨拶。

市長のご挨拶。

今年も台湾からご参加の林さんのグループと交流を深めました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2014年Octoberの過去ログを見ています。

October14日Tuesday: テーマトーク開催しました･･･鳥の外部寄生虫のお話です

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今回のテーマは、「鳥と一緒にくらしていますー外部寄生虫の世界ー」で、山階鳥類研究所自然誌研究室の鶴見室長にお話いただきました。

はじめに、内部寄生と外部寄生、終生寄生と一時寄生など、寄生中の基礎を示してくれました。そして、鳥の外部寄生中として知られている、ダニ類（こちらはクモの仲間）とハジラミ、ノミ、ハエ類（こちらは昆虫）の分類、形態、生態をくわしく紹介してくださいました。

クチヒロハジラミ、ハトナガハジラミ、スズメトリノミ、ニワトリノミ、ハゴロモトリノミ、イワツバメシラミバエ、アオバトシラミバエ、トリチスイコバエ、アカコッコダニ･･･限りなく多様な世界であることが分かりました。

また、ツツガムシの仲間（ダニ類）は、羽毛や羽軸、鼻孔、耳孔、肺･･･などさまざまな部位に寄生するため外部寄生と内部寄生の境界がむずかしいことや、ウモウダニの仲間のように、鳥の羽毛に付着した脂肪分を食べることで鳥にも有益な共生関係が予想されていることなど意外な一面も紹介されました。

また、ツツガムシ（ツツガムシ病で有名）に代表されるように、ダニ類は人

< 2014-10 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

畜鳥共通感染症の原因となるリケッチアやウイルス、あるいは細菌を媒介することがあるため、扱いに注意を怠ってはいけないこともお話しくださいました。

　鳥と共に生きているがあまり意識しなかった生物が、意外に人と関わりを持っていることに改めて気づかされました。

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

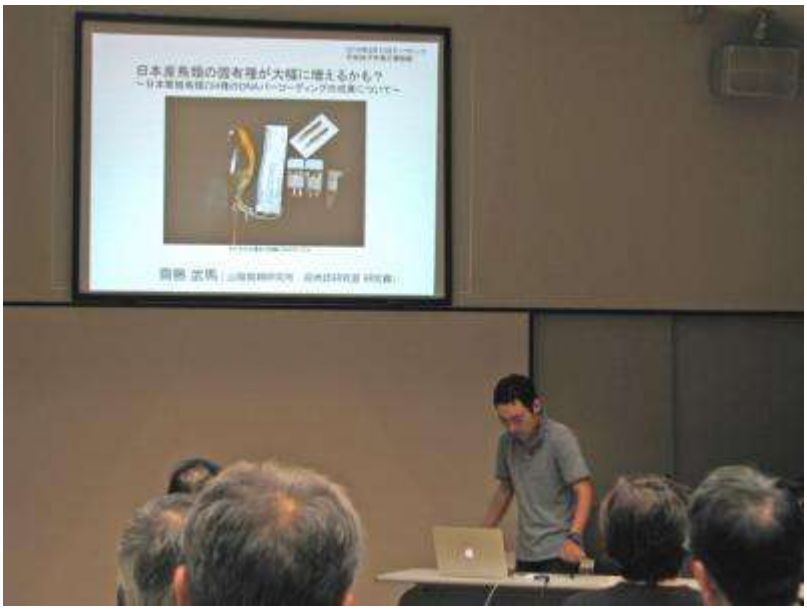
鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2014年Septemberの過去ログを見ています。

September17日Wednesday: テーマトーク開催しました･･･日本の鳥の種類が増える？

カテゴリ: General　　投稿者: saito



今日のテーマは、「日本産鳥類の固有種が大幅に増えるかも？～日本繁殖鳥類234種のDNAバーコーディングの成果について～」で、齋藤武馬研究員（山階鳥類研究所自然誌研究室）のお話でした。

齋藤さんは、はじめに、現在世界中の科学者が協力して行っている生物のバーコーディングプロジェクト（特定の遺伝子のDNAの塩基配列から種を同定する試みでミトコンドリアDNAのCO𝄫領域を比較する）の日本での取り組みを中心に紹介してくれました。

あらゆる生物群でこのプロジェクトが進みつつあり、日本で鳥類を担当しているのが国立科学博物館と山階鳥類研究所だそうです。

このプロジェクトが進むと、例えば、①外見が同じに見えても実際には種分化が進んでいる「隠ぺい種」の同定、②羽1枚あるいは種の特徴が未分化なヒナからの種の同定、粉砕されて血液しか残っていないバードストライクを引き起こした鳥の種の同定、③猛禽類の消化管を調べることによる餌動物の同定、な

< 2014-09 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

ど、これまで解明できなかったことを明らかにする技術を新たに手に入れることができます。

次に、日本の鳥についてこのプロジェクトを進めていく中で、見つかった日本の鳥の分類上の新事実を紹介してくれました。

日本の鳥の中には形態的な差があり、種として識別しているが、遺伝子配列上の差が種レベル以下の鳥がいること。マガモとカルガモ、アカコッコとアカハラ、カッコウとツツドリなどです。

一方、外見はよく似ているが、遺伝子の塩基配列の差が種レベルを超えているものもいること。アカヒゲの亜種、カケスの亜種、トラツグミの亜種、キビタキの亜種、ヒヨドリの亜種、カワラヒワの亜種、リュウキュコノハズクの亜種、ヤマガラの亜種、フクロウの亜種などです。

こうした、分子系統学的な研究が進むにつれて、短時間に形態が分化した種や、逆に同じように見えている鳥たちの中に、遺伝的に隔離されたグループがどんどん見つかり、鳥の種数も増えて行くこともありそうです。

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2014年Augustの過去ログを見ています。

August26日Tuesday: IOCツアー鳥博に！

カテゴリ: General 投稿者: odaya

8月19日から24日まで、東京の立教大学で国際鳥類学会議が行われました。その参加者が22日に山階鳥類研究所と鳥の博物館にやってきました。当日は27名の方が参加され、鳥博では山階コレクション展や、手賀沼の鳥類や環境についての展示を見学されました。

山階鳥類研究所の平岡さんによる山階鳥類研究所の紹介。

< 2014-08 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信

企画展の説明を熱心に聴く参加者。

最後には山階鳥類研究所の収蔵庫と手賀沼へのツアーが行われました。手賀沼での船上観察会の様子。

鳥の博物館友の会

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2014年Julyの過去ログを見ています。

July18日Friday: 夏休み鳥の科学作品展スタート

カテゴリ: General　　投稿者: saito

７月19日、夏休み鳥の科学作品展がスタートしました。
昨年度の小中学生の鳥をテーマにした科学作品です。
これから、夏休みの自由研究を考えている皆さん、見に来てください。
自分の研究に活かす事の出来るヒントが見つかるはず！

July12日Saturday: ７月のテーマトーク開催されました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

< 2014-07 >

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

google.co.jp

今日のテーマは、タマシギの繁殖生態でした。山階鳥類研究所保全研究室の米田重玄（こめたしげもと）研究員にお話しいただきました。タマシギは、一般には、雌が産卵する以外、子育てにおける雌雄の役割が逆転した鳥として知られています。

米田さんは、1979年から1981年にかけて愛媛県と滋賀県のフィールドでタマシギの生態研究を行いました。この時得られた成果は、国際的な鳥類学雑誌のTHE AUK誌にも掲載されています。

お話の中で、まず、鳥類全体の婚姻形態の概要の説明があり、約90％が一夫一妻である鳥類の中にあって少数派（約6％と）の一妻多夫の鳥として認識されていることが紹介されました。

次に、営巣・産卵・抱卵期を通じた１日24時間の観察結果が紹介されました。タマシギの雌は、一巣に通常一日一卵ずつ4卵産み込みます。この時、2卵目が産卵されるまでの数日間は一日の90％は雌雄5m以内で行動しており、3卵目が産み落とされると、その割合が58.5％に減り雄が抱卵しはじめ、これ以降メスは最終の4卵目を産卵する時以外は巣を訪れないという観察結果が示されました。これは、一妻多夫といわれるタマシギの番いの結びつきについて、はじめて明らかにされた事実で、タマシギの婚姻システムを知るための大きなヒントとなる発見でした。THE AUK誌に掲載されたのもこの研究成果に基づいた内容です。このほかにも、タマシギの繁殖生態について、興味深いお話をたくさん聞くことができました。

タマシギは、身近な鳥のわりには見づらく、謎につつまれた鳥のイメージがあります。お話終了後の質疑応答も、活発でした。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2014年Juneの過去ログを見ています。

June14日Saturday: テーマトーク行いました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日のテーマトークは、山階鳥類研究所保全研究室の出口智広研究員にお話いただきました。テーマは、「チャタムアホウドリの新繁殖地形成について」でした。

はじめに、小笠原諸島の聟（むこ）島でのアホウドリ再導入の経過と媒（なこうど）島での自然繁殖の可能性について、最新情報をお話くださいました。また、野生動物の復活を成功するためには、地元の保全への理解が大切であること、そのための普及活動にも力を入れているお話も印象的でした。

本題のチャタムアホウドリの保護活動については、チャタム島の南の断崖絶壁の孤島ピラミッド島の繁殖コロニーからチャタム島へ新繁殖地を形成させるためのタフなプロジェクトについて、現地での活動の写真や動画をふんだんに使った臨場感あふれるお話でした。

ウエカやチャタムヒタキの復活成功例などよく知られていて、ニュージーランドは保護活動の先進地という印象が強く、そのことはまちがいないのですが、活動の原動力は、全てNPOなど民間であるというお話に驚きました。

< 2014-06 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

ニュージーランドでは、財政事情が困難な状況でも、保全活動が文化として定着していることを伺い知ることができるお話でした。

google.co.jp

June 6日Friday: 世界の鳥コーナー並び替え

カテゴリ: General 投稿者: odaya

鳥の博物館開館から24年、この間に鳥類の系統についての情報は飛躍的に多くなり、分類学についても新たな仮説に基づいた提案がされるようになりました。そこで、6月3–4日にかけて当館3Ｆの世界の鳥コーナーの目(もく)の並び順を変更する作業を行いました。どこがどう変わったか、かいつまんでご紹介します。

キジとカモが、ダチョウ目の次に並べ替えられました。最近の研究では、キジとカモはまとめてGallianseresというグループにまとめられ、ダチョウなどの古口蓋類から最初に分岐した系統であることが支持されています。

かつてコウノトリ目はサギやトキ科を含む大きなグループでしたが、最近ではこれらはペリカンにより近く、コウノトリ科は単一のグループを形成することがわかってきました。さらに、ペリカン目に入れられていたウ・カツオドリ・グンカンドリはまとめてカツオドリ目として独立して扱われています。

ハヤブサはタカから離され、スズメ目の前の狭いスペースに押し込まれてしまいました。
これまでハヤブサはタカに近縁であると考えられてきましたが、近年のDNA配列や換羽の研究からは、スズメ・インコを含む新しい鳥類のグループに近いことが分かってきました。この説を採用して、インコをスズメ目の前に配置し、さらにハヤブサをキツツキとインコの間に配置しました。

並び替えに関連して、3つの新しい標本を展示しました。

これまで、ヨーロッパ産のシュバシコウを展示していましたが、新たにアジアのコウノトリを加えて展示しました。

これまでトキ科の展示標本はショウジョウトキ1点でしたが、クロツラヘラサギを新たに展示しました。

昨年新しく入った資料、ミナミジサイチョウの本剥製を展示しました。迫力ある姿とかわいい(？)まつ毛を、ぜひ見に来てください！

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2014年Mayの過去ログを見ています。

May11日Sunday: Enjoy 手賀沼！開催　～館内イベント～

カテゴリ: General　　投稿者: someya

「Enjoy 手賀沼！」開催の本日は無料入館日です。館内も来館者で賑わっていました。

「バードブローチをつくろう」と題して、鳥の形に型抜きしたブローチに絵を付けてオリジナルブローチを作るイベントを行いました。

大人から子どもまで、みなさんすごい集中力です。

< 2014-05 >

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

google.co.jp

May11日Sunday: Enjoy 手賀沼！開催　～館外イベント～

カテゴリ: General　　投稿者: someya

「Enjoy 手賀沼!」は手賀沼とのかかわりを感じながら楽しく過ごせるイベントで、毎年5月の第2日曜に開催しています。
我孫子野鳥を守る会と鳥の博物館の共催で「バードウィーク手賀沼探鳥会」を行い、たくさんの方にご参加いただきました。

約30種の鳥を観察しました。トビ、ノスリ、オオタカなどの猛禽類を見たり、夏鳥のオオヨシキリの声もよく聞こえました。コガモも確認しました。

コガモ

オオヨシキリがさえずっていました

コブハクチョウがヒナをつれていました

May10日Saturday: 「飛べ！鳥の紙ひこうき」を開催しました

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

５月４日（金）に、鳥型の紙ひこうきを作って飛ばすイベント「飛べ！鳥の紙ひこうき」を開催しました。
当日は少し風がありましたが、外で飛ばすこともでき、青空に色とりどりの鳥の紙ひこうきが舞っていました。
参加者の皆さん、ありがとうございました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2014年Aprilの過去ログを見ています。

April14日Monday: 今日のテーマトークは「海鳥の今」を知るための調査のお話でした。

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日（2014.4.12）は、山階鳥類研究所保全研究室の富田直樹研究員に「日本の海鳥の今を知る～環境省モニタリングサイト1000とは～」をテーマにお話いただきました。

これは、環境省が日本の自然環境の保全のために実施している調査で、全国に1000箇所程度の調査サイトを設けて実施するモニタリング調査です。山階鳥類研究所は、島嶼の海鳥の調査を担当し、30箇所の調査地点を3年から5年に1度、継続的に調査しているそうです。

海洋の中の島嶼で行われる調査は、渡船、荷揚げ、野営、岩登り等々、さまざまな苦労がある一方、日常では体験できない驚異に満ちた自然現象に遭遇する楽しみもあるとのこと。

100年続けることを前提に実施されるこの調査、現在10年目を迎え、これまでの成果をまとめているそうです。その間、2011年3月11日の東日本大震災もあり、津波の影響を受けた島嶼の海鳥の変化なども把握されつつあります。

モニタリグ調査は、とても地味な調査ですが、こうした調査結果が長年蓄積

< 2014-04 >

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

されることによって、はじめて自然現象の因果関係が理解できるようになるのでしょう。

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

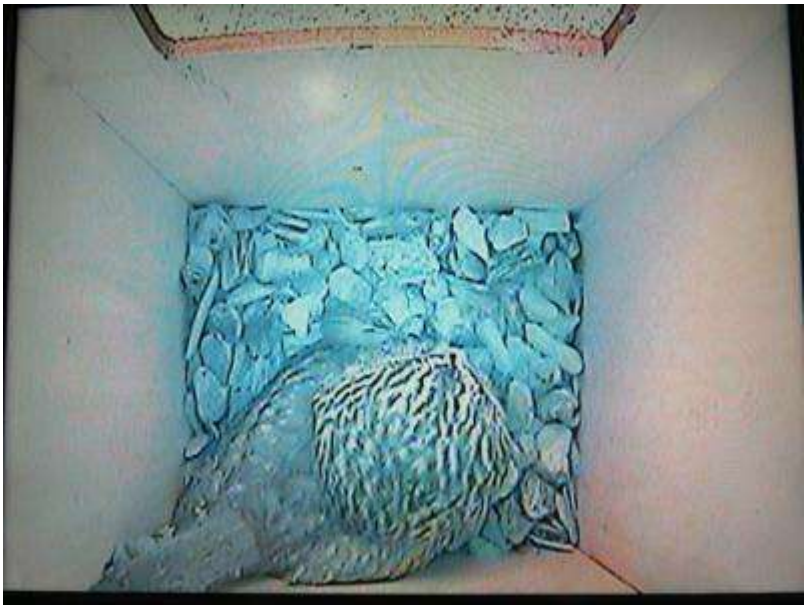
あなたは現在、2014年Marchの過去ログを見ています。

March20日Thursday: ふくろう入りました

カテゴリ: General　　投稿者: someya

昨年の10月に設置した巣箱にフクロウが入りました。昨日19日の映像では2羽のフクロウの姿も確認できます。このまま気に入ってくれるでしょうか。

巣箱には2箇所カメラが設置してあり、ライブ映像をご覧頂けます。映像は鳥の博物館のホームページでもみられますし、鳥の博物館の友の会ルームに設置した特設コーナーでも紹介しています。是非ご覧下さい。



巣箱内の様子

< 2014-03 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信

特設コーナー

鳥の博物館友の会

google.co.jp

March 9日Sunday: 3月のテーマトークは伝説的な鳥類採集人のお話でした

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今月（３月）は、山階鳥類研究所自然誌研究室専門員の平岡考さんが、「採集人折居彪二郎と山階鳥類研究所」のお話をしてくださいました。

折居彪二郎は、日本の鳥類学の黎明期に、黒田長禮や山階芳麿など鳥類学の研究者に頼りにされた腕利きの採集人です。満州、樺太、千島、台湾、南洋諸島など各地を巡り、貴重な鳥類の標本を現在に残しています。採集状況の詳細な記録も残しており、現在も変わらぬ価値ある標本として保存・管理されています。採集人として活躍する初期の頃、大英博物館嘱託採集人のマルコム・アンダーソンと活動を共にしたことから、学術的に役立つ標本の収集や記録の仕方

が身についたそうです。

　折居の名は、現在でも日本の鳥の亜種名などに残っています。折居の詳細な記録とともに保管された標本は、当時の鳥相を知る手がかりとなるばかりではなく、DNAの分析やCTスキャンなど近代科学の手法により、学術的な価値が再発見されています。山階鳥類研究所には、折居の採集した貴重な標本が数多く保管され、そのデーターベースが公開されていることから、広い方面からの研究に役立てられているそうです。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2014年Februaryの過去ログを見ています。

February 9日Sunday: 第34回テーマトーク開催!!

カテゴリ: General　　投稿者: saito

2月のテーマトークは、公益財団法人山階鳥類研究所自然誌研究室研究員の岩見恭子さんにお話しいただきました。

テーマは、「鳥の死体は語る一解剖して分かることー」。

岩見さんが標本作製にかかわるようになったきっかけ、標本の意義・作製法、そして解剖検査の結果から探偵のように死亡原因を突き止めていく過程など、たくさんの実例を示しながらのとても興味深いお話でした。

< 2014-02 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2014年Januaryの過去ログを見ています。

January18日Saturday: 中学生の職場体験

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

市内の中学生が職場体験にやってきました。
館内の展示を見ながら体験学習用のクイズをつくったり、
骨格標本作りを体験しました。
普段、なかなか見ることがないコアホウドリの骨を
部位ごと分けていく作業に、まるでパズルのようだと
感想をもらしていました。

January13日Monday: 写真教室「野鳥を写そう」

カテゴリ: General　　投稿者: saito

< 2014-01 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

google.co.jp

友の会展イベントとして、写真教室「野鳥を写そう」を開催しました。鳥の博物館友の会のデジカメ同好会メンバーが講師となり、自分の体験談もまじえながら、野鳥撮影についてわかりやすく紹介しました。レクチャーの後は野外で野鳥を撮影し、その作品をみんなで見ました。

デジカメ同好会の作品は博物館で紹介しています。是非ご来館下さい。

※友の会展は本日13日で終了

January12日Sunday: 友の会展関連セミナー開催

カテゴリ: General　　投稿者: saito

開催中の鳥の博物館友の会展にちなみ、万葉同好会の関口さんが、額田王の詠んだ歌をもとに、語りをしてくれました。

時は大化の改新の頃、額田王が、宮中のイベントの薬草摘みで皇子に声をかけられたことを詠んで一句。

・茜指す紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る（巻1・20・額田王）

これにこたえて詠まれた一句。

・紫の匂へる妹を憎くあらば人妻ゆゑに我恋ひめやも（巻1・21・大海人皇

子)
　歌が詠まれるに至った情景が、目に浮かぶ名調子の語りでした。

January12日Sunday: テーマトーク開催しました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

　テーマトークは、山階鳥類研究所の研究員にとっておきのお話をしていただいてくトークイベントです。今日は、同研究所自然誌研究室主席研究員岡奈理子さんに、「海鳥とノネコの仁義なき戦い」というテーマで、伊豆諸島御蔵島におけるオオミズナギドリのノネコによる食害の現状についてお話いただきました。
　江戸時代から、住民が貴重なタンパク源としてオオミズナギドリを食料としていたそうですが、資源を枯渇させないよう管理された資源利用により、個体数が維持されていました。
　しかし、1990年以降、新住民の移出入が増加すると、引っ越しに伴い、ペットの飼い猫が野外に放置されるケースが増え、その結果、ノネコが急増しました。それとともに、多くのオオミズナギドリが捕食されるようになり、年間約29,160羽がノネコの被害にあっているとの試算があります。このままの状況が続くと、世界最大のオオミズナギドリの繁殖地である御蔵島の繁殖個体群の激減が予想され、予断が許されない状況です。
　ノネコを捕獲し避妊処置を施すなど、対応策は進められていますが、愛猫家の感情等、さまざまな条件をクリアーしながら、ノネコ個体数の効果的なコントロールが急務だそうです。

January 7日Tuesday: 鳥凧教室開催

カテゴリ: General　　投稿者: saito

2014年の最初のイベントとして「鳥凧教室」を開催しました。事前申し込みのイベントでしたが、すぐに定員いっぱいになってしまう程の人気でした。

「鳥凧教室」は鳥の博物館友の会、鳥凧同好会のメンバーが講師になって、お子さんでも作れる鳥凧の作り方をレクチャーしました。たくさんのご参加ありがとうございました。

みなさん作業に夢中です。

自分が作った鳥凧を持って「はい！チーズ」

凧あげも楽しみました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2013年Decemberの過去ログを見ています。

December16日Monday: テーマトーク「南西諸島の南北で異なるキビタキの羽色」開催！

カテゴリ: General　　投稿者: saito

山階鳥類研究所保全研究室研究員の茂田良光さんに、「南西諸島の南北で異なるキビタキの羽色」というテーマでお話しいただきました。

現在の日本鳥類目録では、日本のキビタキは、亜種キビタキと亜種リュウキュキビタキの２亜種認められていますが、かつては、亜種キビタキ、亜種リュウキュウキビタキ、亜種ヤクシマキビタキ、亜種アマミキビタキに分けられていました。

その後、おもに成鳥の羽装のちがいや計測値を再検討したところ、亜種間のちがいが連続的なもの同士が一つの亜種として再構成され、２亜種となったそうです。

茂田さんらがかつて４つの亜種に分けられていたグループそれぞれを詳細に観察したところ、やはり羽装（とくに成鳥の羽装になるまでにかかる年数など）にちがいがあり、区別できる点があることが分かってきました。

今後、かつての亜種が復活する可能性を示すお話でした。

December 7日Saturday: 友の会展始まる～H26.1/13

< 2013-12 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

カテゴリ: General 投稿者: saito

google.co.jp

鳥の博物館友の会展が、今日から始まりました。
友の会の一年間の活動の成果が発表されています。
鳥の博物館を通じたコミュニティーで、活動を存分に楽しんでいるようすが、伝わってきます。
じっくり見ると、とても味わい深い展示です。
ぜひ、見に来てください。
友の会展に合わせたイベントもあります。（参加費無料、ただし入館料がかかります）
〇トークイベント「語りで楽しむ万葉集・額田王」
・2014.1.11（土）14:30〜
・鳥の博物館2階多目的ホール
・語り部：関口小夜子さん（友の会会員）
〇写真教室「野鳥を写そう！」
・2014.1.13（月・祝）10:00から12:00
・鳥の博物館2階友の会ルーム
・小学生以上初心者の方対象（デジカメ持参してください）

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2013年Novemberの過去ログを見ています。

November 9日Saturday: 11月のテーマトーク、開催しました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日のテーマトークのタイトルは、「標識調査による陸鳥の繁殖モニタリング調査」。山階鳥類研究所保全研究室の仲村昇さんにお話しいただきました。

東日本大震災に端を発する原発事故による放射線物質の環境への拡散が生物に与えた影響を把握する目的で、一昨年から始めたモニタリング調査について紹介いただきました。

放射線量の異なる地点をいくつか調査地として選定し、決められた努力量で捕獲した鳥類の種類、個体数、成鳥・幼鳥の比率、年齢ごとの生残率などを調査し、地域別、年別の変動を調べるそうです。

調査は、10年単位の長期間行わなければ、生物への影響について確かなことは分からないそうですが、これまで２年間の調査からは、放射性物質の拡散が、鳥類に壊滅的な影響を及ぼしているような目に見えるような現象は見られていないとのことでした。

今後も、継続的に調査を行っていくとのことでした。

November 4日Monday: JBF（ジャパンバードフェスティバル）開催される

< 2013-11 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

カテゴリ: General 投稿者: saito

google.co.jp

第一線で活躍する鳥類研究者に、研究のおもしろさを語っていただく鳥学講座、23回目の今年は、カラスの研究者の松原始さん（東京大学総合科学博物館助教）に講演いただきました。タイトルは、「ハシブトガラスは高みの見物〜時々、歩きますけどね〜」。鳥学講座最多の190人の聴衆の多くが、カラスと松原さんのファンになったようです。この講座は、山階鳥類研究所との共催で実施しています。

JBF2日目（11/3）には、鳥の博物館でゲストトークを行いました。全国から出展するJBF参加団体にゲストとして来館いただき、じっくりお話を伺いました。ゲストと地元の方達との交流の場になればと思い実施しています。
今回のゲストは、小笠原村観光局の根岸さんはじめ皆さんです。スペシャルゲストに、小笠原の鳥類の研究を20年以上続けている川上和人さん（独立行政法人森林総合研究所野生動物研究領域）。小笠原の鳥と自然の魅力をたっぷりと紹介していただきました。まさに上質な、サイエンス・エンターテイメントでした。

↓館内、館外の鳥博広場、大賑わいでした。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2013年Octoberの過去ログを見ています。

October12日Saturday: テーマトークを開催しました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日のテーマは「DNAから分かるカワラヒワの地理的変異」、山階鳥類研究所自然誌研究室の齋藤武馬さんにお話いただきました。

これまで記載されていたカワラヒワの亜種を、DNAの塩基配列を用いた系統分類の手法で再検討した結果について紹介してくださいました。

現時点までの結果では、亜種オガサワラカワラヒワは、別種と呼べるくらい、古い時代に分岐したことが分かり、一方、亜種オオカワラヒワは、ほとんどちがいが検出されなかったそうです。今後、亜種オオカワラヒワについては、より進化速度の速い遺伝子の領域を調べることが、今後の課題とのことでした。

また、別種ほどちがいのあるオガサワラカワラヒワは、現在、小笠原諸島や硫黄列島のごく一部の属島で繁殖するのみで、個体数も数百羽と推定されており、絶滅の危機に瀕しているそうです。

October 7日Monday: 鳥博セミナー開催しました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

< 2013-10 >

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

google.co.jp

企画展「鳥の骨展ー空飛ぶ骨組みー」関連セミナーを行いました。
テーマは、「ハチドリの飛行のヒミツー飛行生物のエアロダイナミクスー」。講師は、生物の飛行のエアロダイナミクスがご専門の千葉大学助教の田中博人さん。飛行の力学の基礎から、スケールによる飛行方法のちがい、ハチドリの飛行の特徴、今後の研究の方向性など、幅広い内容を分かりやすくお話いただきました。鳥の博物館の利用者には、空飛ぶことに関心のある方がさすがに多く、席はほぼ満席でした。工学と生物学の双方の視点から鳥の飛行を調べると、お互いの情報が次なる研究を誘発し、新たな世界が開けることを改めて感じさせる、興味深いセミナーでした。

October 1日Tuesday: カワセミの標本を入れ替え

カテゴリ: General　　投稿者: odaya

博物館3階世界の鳥コーナーに展示してあるカワセミの標本を入れ替えました。これまで展示してあった標本は幼鳥で、胸が茶色く背中の金属光沢も弱いため、「きれいなカワセミを展示してほしい」という要望が以前からあったためです。交換後は、鮮やかな成鳥のカワセミになりましたので、博物館にお越しの

際はぜひ新しいカワセミに会いに来てください！

カワセミの交換と合わせて、いくつかの鳥の義眼(剥製に入れている目の模型)の交換も行いました。ミサゴは暗色の義眼が入っていましたが、本来の淡い黄色にすることで、鋭い眼光を取り戻しました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2013年Septemberの過去ログを見ています。

September23日Monday: テーマトーク開催！「ミソサザイの分類のお話し」

カテゴリ: General　　投稿者: saito

毎月恒例のテーマトークを開催しました。今回は、公益財団法人山階鳥類研究所自然誌研究室研究員の浅井芝樹さんにお話ししていただきました。

テーマは、「日本に生息するミソサザイに地理的な違いはあるか？」でした。

1922年に出版された日本鳥類目録では、ミソサザイという種に7亜種含まれていました。つまり、色や形のちがいで７つの地理的なまとまりに分けられていました。ところが、目録が版を重ねるにつれて、まとまりが4つ（4亜種）になり、最近出版された第7版では３つ（3亜種）と変化しています。

日本鳥類目録第7版の編集にたずさわった、浅井さんは、亜種数の変遷について文献を調査してみたところ、亜種を統合した科学的な根拠が論文として示されていないことに気がつきました。

そこで、この変遷の妥当性を、最近急速に進歩した分子系統学的方法（DNAの塩基配列を比較する方法）を用いて、類縁関係を調べることで検証したそうです。現在までの研究結果から、伊豆諸島にすむ個体群とそれ以外（北海道、

< 2013-09 >

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

検索

検索

ナビゲーション

前の月
次の月
今日の投稿
過去ログ

カテゴリ

全てのカテゴリ
General
お知らせ
今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

我孫子市鳥の博物館
フィールドミュージアム
ふくろうトピックス
とりはく自然通信
鳥の博物館友の会

九州、屋久島に生息する）の個体群の２つに分かれる結果が出たそうです。つまり、日本鳥類目録が最初に出版された時に示された７つの地域によるちがいは、少なくとも分子系統学的方法では２つしか見つからなかったことになります。

ただし、色や形などの進化が早く進み、分子系統学的方法では検出できない可能性もあり、さらに、形態のちがいを細かく検証する必要があるそうです。

分子系統学的な研究結果を、どのように生物の分類に活かすのか、そして系統学を分類学にどのように取り入れるべきか、いろいろ考えさせられる示唆に富んだお話でした。

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2013年Augustの過去ログを見ています。

August29日Thursday: 中学生の職場体験

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

市内の中学生が職場体験にやってきました。
収蔵庫や展示室の見学から始まり、
実際に自分たちで体験学習用のクイズを作成したり
フクロウの巣箱に残っていた餌動物の骨の回収などを行ったりと
内容盛りだくさんの２日間でした。

August29日Thursday: 夏休みイベント「くるくるカモ飛行機」

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

８月２５日（日）に夏休みイベント「くるくるカモ飛行機」を開催しました。
ゴム動力で飛ぶ飛行機で、プロペラが後ろについているのが特徴です。
７月の後半から始まった「夏の遊びと研究大集合2013」も
これですべてのイベントが終了しました。
参加していただいた皆様、ありがとうございました。

< 2013-08 >

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

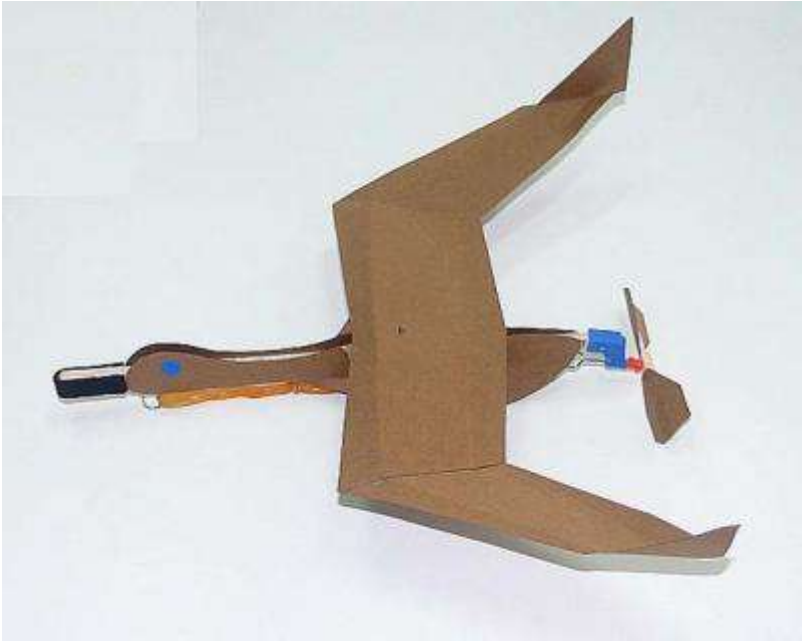
パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会



google.co.jp

August23日Friday: ティーチャーズデー開催

カテゴリ: General　　投稿者: saito

小中学生にもっと博物館を利用してもらいたいと考え、まず、先生たちに博物館のこと（学習資源）を知っていただこうという目的で、ティーチャーズデーを開催しました。博物館の魅力を再発見してもらえると大成功です。

August18日Sunday: 夏休みイベント「藍染めを体験しよう」

カテゴリ: General　　投稿者: muramatsu

夏休みイベント「藍染めを体験しよう」を開催しました。
博物館で栽培したアイを使って、生葉染めのエコバックと
たたき染めのコースターを作りました。
染色液に浸して緑色になった布が、取り出して空気にさらすと
藍色に変わっていく様子がよくわかりました。
みなさん、ご参加ありがとうございました。

August11日Sunday: 夏休みイベント「鳥の脳を観察しよう」開催

カテゴリ: General　　投稿者: saito

夏休み恒例のイベント「鳥の脳を観察しよう」を開催。
身近な素材（＝鶏頭の水炊き）で、鳥の脳を観察しました。参加者は、皆、はじめはおそるおそる、やがて興味津々、自らピンセットを握って、小脳、視神経等々観察していました。

August10日Saturday: テーマトーク開催

カテゴリ: General　　投稿者: saito

日本鳥類目録は、文字通り日本で確認された鳥のリストで、日本鳥学会が編集したものです。この目録が昨年改訂されたことは、鳥の研究者はもちろん趣味でバードウオッチングを楽しむ人たちにも、少なからぬ影響を与えました。鳥の図鑑の並び順や、見た鳥を整理する時の並べる順番が変わってしまったのですから。博物館や動物園でも、展示の順番を変更する必要があります。

これだけ大きな影響を与えることが十分考えられるのに、なぜ、新たな目録を編集したのか、その理由が、まさに今日のお話のテーマであり、この編集に携わった山階鳥類研究所自然誌研究室研究員の山崎さんが、分かりやすく解説

してくださいました。

目録の基礎となる種の記載と系統進化の仮説によって成り立つ生物分類は、ユーザーにとっての安定性が重要であると同時に、常に新たな科学的な知見を取り入れてアップデートしていかなければいけないそうです。ここ十数年の間に飛躍的に発達したDNAの塩基配列比較の解析方法は、これまでの形態比較の手法に比べて桁外れの多数の情報を比較できるため、信頼性も高いとのこと。そしてこれまでの系統進化の推定を覆す新事実が多々発見されたそうです。この成果を反映した日本鳥類目録第７版は、第６版までの体系とずいぶん異なったものになったとのことでした。

目録のユーザーにとっての安心材料は、今回編集された日本鳥類目録第７版の基本的な分類体系に、今後大きな変化はないだろうという点です。

アップデートされていく目録を見ながら、鳥類の進化の歴史に思いを馳せるという、一歩進んだバードウオッチングの楽しみ方へのヒントが随所に出て来る楽しいお話でした。

August 4日Sunday: 夏休みイベント「メダカ飼育入門」を実施しました

カテゴリ: General　　投稿者: shioda

８月４日（日）に「メダカ飼育入門」の夏休みイベントを実施しました。最近、日本のメダカがキタノメダカとミナミメダカに種が分かれたことや、メダカを飼うときの注意事項などについて説明した後、鳥の博物館で育てているメダカの稚魚と、同じく鳥博で育てているガシャモク、コウガイモ、マツモをレイアウトして、小さなアクアリウムを作りました。

August 4日Sunday: 夏休み学童出前講座「ダチョウの骨を組み立てよう」を実施しました

カテゴリ: General　　投稿者: shioda

７月下旬から８月にかけて、我孫子市内の学童保育室へ出前講座を実施しました。テーマは「ダチョウの骨を組み立てよう」です。組み立て用に作られたダチョウの体、脚、首、頭の骨を組んでいって、全身骨格を完成させました。骨を見ることが少ない子どもたちは、興味津々で見ていました。

August 3日Saturday: 夏休みイベント「バードブローチをつくろう」を開催しました

カテゴリ: General　　投稿者: shioda

７月２８日（日）に「バードブローチをつくろう」の夏休みイベントを開催しました。鳥の博物館友の会の鳥絵同好会の皆さんが考えたイベントです。鳥のクッ

キー型でつくった粘度のブローチに好きな鳥の色を塗ります。図鑑や、剥製を見ながら自分の好きな鳥のブローチをつくりました。

August 1日Thursday: 夏休みイベント「鳥凧をつくろう」を開催しました

カテゴリ: General 投稿者: shioda

７月２１日（日）に「鳥凧をつくろう」の夏休みイベントを開催しました。鳥の博物館友の会の鳥凧同好会が考案したオリジナルの鳥凧を製作しました。幅１６０cmの大きな鳥形の凧ですが、折りたたみ式になっており、持ち運ぶときはコンパクトになるという工夫がなされています。出来上がった参加者のみなさんはとてもうれしそうでした。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2013年Julyの過去ログを見ています。

July14日Sunday: テーマトークを開催しました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

山階鳥類研究所の副所長の尾崎さんが、ズグロカモメについてお話してくださいました。

国内では、主に西日本で越冬するズグロカモメですが、分布が限られているため、IUCNのレッドリストでは危急種に位置づけられています。

ズグロカモメの繁殖地が確認されたのは、比較的最近で、中国の遼寧省盤錦の塩性湿地が最大規模です。ここで繁殖した個体が日本で越冬することも標識調査から明らかにされています。

海岸に近い広大な裸地で繁殖することや、干潟で上空からの急降下で餌を捕らえることなど、コアジサシに似た生態が知られています。

ズグロカモメの繁殖地や採餌場所は、干拓や埋め立てなど人間活動の影響を受けやすい環境にあり、まるで東京湾の埋め立て工事により減少していったコアジサシと同様の経過をたどるのではないかと懸念されています。

< 2013-07 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2013年Juneの過去ログを見ています。

June15日Saturday: 利根川ゆうゆう公園で探鳥会を開催しました!!

カテゴリ: General　　投稿者: saito

< 2013-06 >

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信

利根川ゆうゆう公園の自然観察ゾーンで、あびこ自然観察隊「河原の鳥を観察しようーヒバリ、オオヨシキリ、コヨシキリー」を開催しました。危ぶまれた雨にも降られず、河原の鳥を楽しむことができました。お目当てのコヨシキリのさえずる姿も、じっくり観察できました。

June 9日Sunday: テーマトーク開催！

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今月のテーマトーク（2013年6月8日）は、岡奈理子さん（公益財団法人山階鳥類研究所自然誌研究室上席研究員）にお話いただきました。

テーマは、「鳥の行動から放射能被曝を予測する～海鳥オオミズナギドリを例に考える～」でした。

3.11東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故では、四基の原子炉が爆発し、放射性物質が放出されました。その約７割が海洋に散布されたと考えられ、さらに長期に渡り陸域からの自然流出も続きます。この海域は、暖流と寒流が会合する生物生産性の高い漁場であり、御蔵島など本州沿岸の島で繁殖するオオミズナギドリの絶好の餌場となっています。当然、採餌を通じて生物濃縮された放射性物質を取り込んでいるものと考えられ、その影響も懸念されます。しかし、オオミズナギドリのように、1000キロ以上の海域を日常的に移動する鳥は、さまざまな環境条件の中で生活しているため、3.11以降の鳥の形態、生態の変化が見つかったとしても、それが何を原因としているのか、その因果関係を短期的にとらえるのは相当難しいことも分かりました。

鳥の博物館友の会

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2013年Mayの過去ログを見ています。

May12日Sunday: バードウィーク手賀沼探鳥会in2013Enjoy手賀沼開催!!

カテゴリ: General　　投稿者: saito

手賀沼の自然に親しむイベント「2013Enjoy手賀沼」が開催されました。夜明け前までの雨も上がり、好天に恵まれ大盛況でした。

< 2013-05 >

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

鳥の博物館では、このイベントのルーツの一つであるバードウィーク手賀沼探鳥会を行いました。案内役の我孫子野鳥を守る会の会長のご挨拶と今日の探鳥会についてのお話を聞き、スタートしました。

手賀沼遊歩道沿いの緑の中を見つけた鳥の解説を聞きながら進みます。とても気持ちのよい探鳥会でした。

google.co.jp

nucleus

最後は、鳥の博物館の３階展望テラスでまとめ（鳥合わせ＝みつけた鳥を確認し合うこと）を行い、解散しました。参加者の多くは、Enjoy手賀沼の午後のイベントに向かったようです。

May11日Saturday: テーマトークを開催しました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日のテーマは、「画像で見る山階鳥類研究所の昔とゆかりの人たち」。山階鳥類研究所自然誌研究室室長の鶴見みや古さんにお話いただきました。

お話の中で、日本の鳥類学の礎を築き、山階鳥類研究所を設立した山階芳麿博士の活躍していた頃の写真や映像が紹介されました。渋谷の山階邸周辺の風景やパーティーの様子など、当時の風俗を知る上でも貴重な画像や映像でした。

また、山階博士と交流があり、共に現在の鳥類学の黎明期に活躍した、清棲幸保、黒田長禮、松平頼孝、中西悟堂、蜂須賀正氏、各研究者に雇われ活躍した名採集人として名高い、折井彪二郎、山田信夫なども合わせて紹介されました。

山階鳥類研究所の現在までの歴史を、時代の雰囲気と合わせてうかがい知る事のできるお話でした。

May11日Saturday: 「飛べ！鳥の紙ひこうき」を開催しました

カテゴリ: General 投稿者: muramatsu

５月３日に工作イベント「飛べ！鳥の紙ひこうき」を開催しました。
折り紙のひこうきとは違い、航空力学に基づいて設計された厚紙でつくる鳥型の紙ひこうきです。作り終わったらまずは室内で飛行練習！

最後は外に出て、ゴム動力で大空高く飛ばしました。
たくさんのご応募ご参加ありがとうございました。

May 6日Monday: 人気のワゴントーク！

カテゴリ: General 投稿者: saito

ゴールデンウィークに始めたワゴントーク（標本や道具をワゴンに載せて行う展示室でのスポットガイド）が人気です。展示交流員（市民スタッフ）によるカワセミのお話に、たくさんの来館者が熱心に耳を傾けていました。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2013年Aprilの過去ログを見ています。

April28日Sunday: 展示交流員新企画の試行と勉強会開催

カテゴリ: General　　投稿者: saito

鳥の博物館の展示交流員（市民スタッフ）が、展示室内の新企画=ワゴントークの練習をしました。ワゴントークとは？･･･、近々スタートしますのでお楽しみに。

< 2013-04 >

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

午後、市民スタッフによる自主勉強会が行われました。標本作製に詳しいスタッフの一人が、剥製が完成するまでの工程や手入れの仕方を中心に紹介してくれました。そして、博物館の標本の持つ「本当の価値」について考えました。

April13日Saturday: テーマトーク開催！

カテゴリ: General　　投稿者: saito

毎月、山階鳥類研究所員の方にお話いただくテーマトーク、第25回のテーマは「ヤキトリの鳥類学」。同研究所の平岡さんに、お話いただきました。

身近な「ヤキトリ」から鳥への理解が深まる内容でした。

「手羽先」からは、人の前肢との関連から鳥の起源の証拠となる指問題にまで話がおよびました。「ささみ」からは、鳥の羽ばたきのメカニズムについて理解が深まりました。「すなぎも」からは、歯をもたない現代の鳥の強力な消化管について、理解することができました。

この日の夜、ヤキトリを前に、飛ぶために進化した鳥の形に思いを馳せている参加者も、きっと多いことでしょう。

google.co.jp

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2013年Marchの過去ログを見ています。

March27日Wednesday: 浦安市からのお客さん

カテゴリ: General　　投稿者: saito

浦安市環境保全課主催の環境学習活動の一環で、同市の小中学生約30人が来館しました。

展示解説に熱心に耳を傾け、用意して来た課題のヒントを求めて館内を熱心に見学していました。

雨の中、ご来観ありがとうございました。

March20日Wednesday: 「春の谷津田観察会」を行いました

カテゴリ: General　　投稿者: shioda

< 2013-03 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信

春分の日、岡発戸・都部の谷津田で観察会を行いました。鳥類は２９種類確認できました。ウグイスのさえずり、キジの母衣打ち、シジュウカラのさえずりがよく聞かれました。ニホンアカガエルのオタマジャクシや卵塊、アズマヒキガエルの卵塊も観察できました。草の花はオオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、タチツボスミレ、ノジスミレ、ジロボウエンゴサクなどが咲いていました。あたたかな春の雰囲気いっぱいの谷津田でした。

March13日Wednesday: 埼玉県越谷市のウオッチング指導員と市民スタッフが交流しました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

埼玉県越谷市の環境経済部環境政策課が委託している自然観察の指導員の方達（ウオッチング指導員）30人が職員とともに鳥の博物館を訪れました。あいにくの強風のため、野外観察はできませんでしたが、鳥の博物館の市民スタッフと交流を深めることができました。

鳥の博物館友の会

google.co.jp

こんな素敵なガイドブックを作っていて、寄贈していただきました。

March 9日Saturday: テーマトークを開催しました

カテゴリ: General　　投稿者: saito

今日、3月9日（土）、毎月恒例のテーマトークを行いました。

今回は、公益財団法人山階鳥類研究所保全研究室の米田重玄（こめだしげもと）さんにお話ししていただきました。

2010年9月から2012年9月までの2年間にわたり、JICA(国際協力機構)の技術指導プロジェクト「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」に参画された時に見た、中国陝西省洋県での野生のトキの生息状況やプロジェクトの内容について、紹介していただきました。

現在世界中（といっても東アジア）のトキの数は約2,000羽ですが、その全てが中国陝西省洋県で見つかった2つがい7羽のトキから繁殖したものです。

写真で紹介された洋県の農村風景は、日本の約30年前によく似ていましたが、農家が営む稲作の一年の周期に合わせてトキもくらしている様子がよく理

解できました。田んぼのタウナギもトキの主要な餌になっているのはビックリです。この地域の主要な生産物であるナタネ油採集のために菜の花畑が拡大し、トキの主要な餌場となっている田んぼが減少していることもトキ保護上の一つの課題になっているそうです。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2013年Februaryの過去ログを見ています。

February28日Thursday: 鳥博日誌は引き続き運用されます。

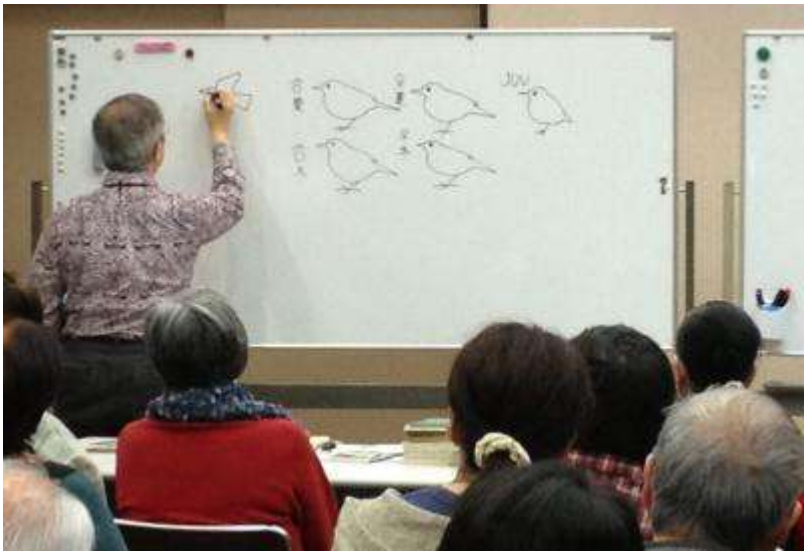
カテゴリ: General　　投稿者: tokita

休止予定でしたブログ「鳥博日誌」は開設できる事になりました。
今後ともよろしくお願いします。

February19日Tuesday:

カテゴリ: General　　投稿者: tokita

2月17日（日）鳥博セミナーを友の会との共催で開催。
テーマは「イラスト野鳥図鑑製作の現場から」
講師に野鳥イラストレーター谷口高司さんをお招きし野鳥図鑑の製作のお話しを伺う事が出来ました。谷口高司さんは、野鳥図鑑１冊丸ごと図版から描ききるイラストレーターとして非常に希な存在です。その執筆活動が評価され、１９９４年にはスミソニアン自然史博物館より日本人初の指名を受けて「インド亜大陸の鳥類」を一部執筆したりと国内外の図鑑作成に携わられておられます。今回は、この図鑑製作のご苦労などを交えて楽しいお話しをお聞きする事が出来ました。



終了後には質問やら白板に描かれた鳥のスケッチに参加者は魅了されておりま

< 2013-02 >

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

した。

google.co.jp

February13日Wednesday: 春のざわめき

カテゴリ: General　　投稿者: tokita

そろそろ北帰する鳥たちがざわざわとする時期です。
我孫子市の利根川に接する遊水池の北新田にこのところコハクチョウやオオハクチョウが立ち寄っています。3月12日、オオハクチョウ8羽が落ち穂拾いで暫く田んぼに腰を落ち着けていました。（8羽：成鳥3羽、幼鳥5羽）

コイカルで有名？な手賀沼の畔、最近も姿を現してバードウォッチャーや写真愛好家を楽しませてくれています。鳥の博物館の駐車場近くで観察出来るのも何かの縁、コイカルの後は博物館に立ち寄っていただき多くの鳥を見て楽しんでもらいたいです。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008

鳥博日記

過去ログ

あなたは現在、2013年Januaryの過去ログを見ています。

January16日Wednesday: 手賀沼につかの間のオオハクチョウ2羽

カテゴリ: General　　投稿者: tokita

本日16日、手賀沼（博物館の前辺り）に2羽のオオハクチョウが舞い降りました。悠然と湖面を泳いでいましたが、コブハクチョウの集団に威嚇されて手賀沼下手に飛去してしまいました。

< 2013-01 >

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

検索

検索

ナビゲーション

- 前の月
- 次の月
- 今日の投稿
- 過去ログ

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- General
- お知らせ
- 今日の一枚

ログイン

ログインID:

パスワード:

このPCを他の人と共用する

ログイン

リンク

- 我孫子市鳥の博物館
- フィールドミュージアム
- ふくろうトピックス
- とりはく自然通信
- 鳥の博物館友の会

google.co.jp

コンパクトデジカメで撮影していると、やたらにオナガガモやユリカモメが餌をくれるのかと急接近してきます。横を見ると何処からか数羽のドバトが１ｍの至近距離で近づいて来て、「何かくれ」という目つきをされました。

January16日Wednesday: テーマトークが開催されました。

カテゴリ: General　　投稿者: tokita

「デコイに恋したアホウドリ 鳥島のデコちゃんのルーツ解明される」と題して
日時 1月12日(土)鳥の博物館2階多目的ホールでテーマトークが開催されました。
講師は山階鳥類研究所保全研究室の佐藤文男研究員。
内容 デコイに恋したことで有名なアホウドリのデコちゃんは2009年以来、本物のアホウドリと順調に繁殖を続けてきましたが、DNA分析からデコちゃんのルーツに意外な事実が判明したお話しや最近提唱されたアホウドリ類の分類再検討の話題も含め、長年の生態研究をふまえてお話しを伺いました。

　来月2月9日(土)のテーマトークは「農耕地に暮らすタカ　～トビの生態～」です。

January 6日Sunday: 鳥凧教室が開催されました。

カテゴリ: General　　投稿者: tokita

　本日6日お正月のイベント、友の会共催で「鳥凧教室」を開催いたしました。ポリ袋を利用した作りが簡単でよく揚がる鳥凧を2種類を作りました。
　鳥博友の会の鳥凧同好会のスタッフが作製から凧揚げまで丁寧に指導していました。生憎午前中は風がありましたが、午後になってピタッと風が止んで、その中での凧揚げですが、微風を捉えて、ちょっと大袈裟ですが天まで届いたようです。参加者は、楽しい一時を過ごされたようです。
日　時：2013年1月6日（日）13:30～15:30
最初の説明

製作に入りました。みんな一生懸命に作業されていました。

凧には顔があります。一生懸命思い思いの顔を描いています。

さて飛ぶでしょうか？もう少し風があれば良かったです。

以上報告でした。

Copyright | Nucleus CMS v3.64 | Valid XHTML 1.0 Strict | Valid CSS | トップページに戻る | Since 14,Mar.2008